

佐久市埋蔵文化財調査報告書 第82集

市内遺跡発掘調査報告書 1998

2000.3

佐久市教育委員会

例 言

1 本書は、1998年度（平成10年度）において個人住宅、民間開発および公共開発に係わる試掘調査並びに立ち会い調査を実施した市内遺跡発掘調査報告書である。

2 事務局の構成

1999年度（平成11年度）

◎発掘調査受託者 教育長 依田 英夫

事務局

教育次長 小林 宏造

文化財課 課長 草間 芳行

文化財係長 荻原 一馬

文化財係 林 幸彦 須藤 隆司 小林 眞寿 羽毛田 卓也

富沢 一明 上原 学 山本 秀典 出澤 力

調査主任 佐々木 宗昭 森泉 かよ子

3 各遺跡の執筆は発掘担当者が行い、編集は出澤が行った。

4 本書掲載の関係資料等は、佐久市教育委員会の責任下に保管してある。

目 次

1. 新町遺跡 6	(1)	18. 番屋前遺跡群12	(25)
2. 岩村田遺跡群21	(2)	19. 跡部儘田遺跡・跡部町田遺跡	(27)
3. 下北古屋遺跡（隣接）	(3)	20. 中原遺跡群20	(28)
4. 芝宮遺跡群10	(4)	21. 下蟹沢遺跡 3	(29)
5. 松の木遺跡Ⅲ	(6)	22. 松の木遺跡（隣接）	(30)
6. 西大久保遺跡群8	(8)	23. 西近津遺跡群 2	(31)
7. 中久保田遺跡 5	(10)	24. 金山遺跡（隣接）	(32)
8. 中原遺跡群17	(11)	25. 岩村田遺跡群22	(34)
9. 中原遺跡群18	(12)	26. 平賀中屋敷遺跡 5	(35)
10. 芝宮遺跡群11	(13)	27. 中原遺跡群21	(36)
11. 枇杷坂遺跡群15	(15)	28. 野沢館跡 3	(37)
12. 西一本柳遺跡群 西一本柳遺跡Ⅶ	(16)	29. 長土呂遺跡群 下聖端遺跡	(39)
13. 平賀中屋敷遺跡 4	(18)	30. 薊沢遺跡 3	(40)
14. 立石遺跡 6	(19)	31. 根々井館跡 4	(42)
15. 中原遺跡群19	(20)	32. 内山中村遺跡 1	(44)
16. 向畑遺跡 2	(21)	33. 藤ヶ城跡 1	(45)
17. 深堀遺跡群他	(22)	34. 野沢館跡 4	(46)

付表 1998年度市内遺跡発掘調査一覧表

付図 1998年度市内遺跡発掘調査位置図

試掘調査

1 新町遺跡 6

所在地 佐久市大字中込字横道 2040-1 外

開発主体者 (株) 木下組

開発事業名 宅地造成

調査期間 平成10年4月2・3日

面積 2,993m²

調査担当者 富沢 一明



新町遺跡位置図 (1:10,000)

立地と経過

新町遺跡は、中込市街地の南側、佐久市大字平賀に所在し、千曲川と田子川とに挟まれた微高地上に立地している。道路改良工事に伴う立ち会い調査が実施されており、土師器・須恵器の小片が検出されている。

今回、木下組が宅地造成を遺跡群内に計画したため事前に試掘調査を実施した。

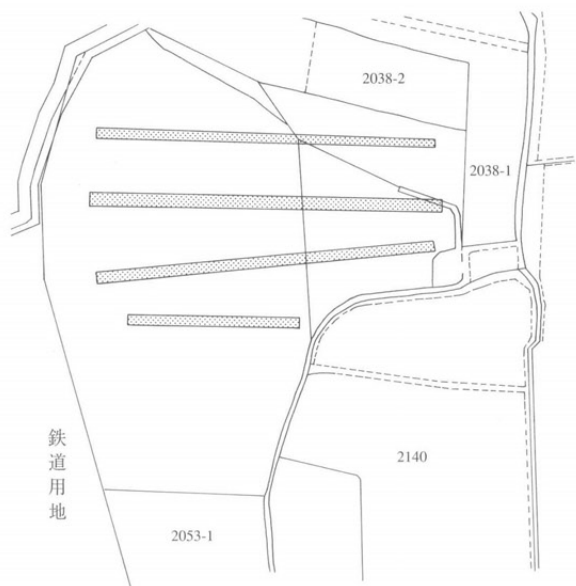


新町遺跡調査地点 (北方から)

調査の結果

右図のように宅地造成予定地にトレンチ4本を設定し、遺構・遺物の確認調査を行った。

結果、遺構・遺物ともに確認されなかった。



新町遺跡調査全体図 (1:1,000)

試掘調査

2 岩村田遺跡群 21

所在地 佐久市岩村田字諏訪宮及び外西浦
開発主体者 佐久市（区画整理課）
開発事業名 岩村田西本町沿道土地区画整理事業
調査期間 平成10年4月7日
面積 90m²
調査担当者 上原 学



岩村田遺跡群位置図 (1:10,000)

立地と経過

岩村田遺跡群は、岩村田市街地北半を中心に広がり標高 702 ～ 737 m の台地上に展開する。調査区は、小海線岩村田駅から岩村田市街地に向かう道路沿いにあり、佐久警察署の東に位置する。

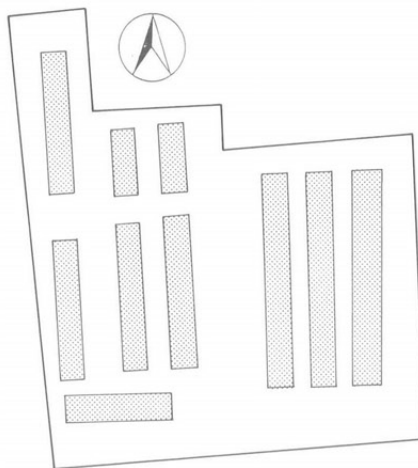
今回、佐久市による土地区画整理事業の一環として道路拡幅工事が行われることとなり、遺構の有無を確認するため試掘調査を行った。

調査の結果

調査区に南北方向のトレンチ9本、東西方向のトレンチ1本を設定し、遺構の確認を行ったが、遺構・遺物ともに認められなかった。



岩村田遺跡群調査区全景

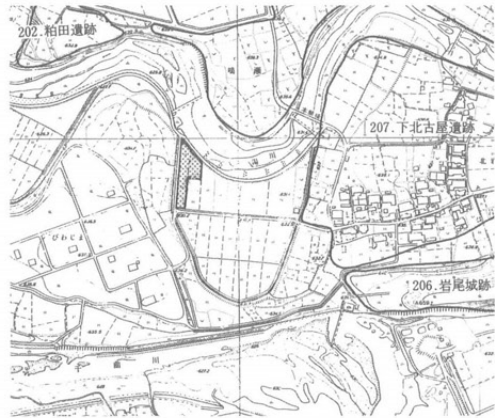


岩村田遺跡群調査全体図 (1:5,000)

試掘調査

3 下北古屋遺跡（隣接）

所在地 佐久市大字鳴瀬字本願 3380-1 外 2 筆
開発主体者 佐久市（排水対策課）
開発事業名 農業集落排水事業
調査期間 平成10年4月10日～4月14日
面積 1,470m²
調査担当者 上原 学



下北古屋遺跡位置図 (1:10,000)

立地と経過

下北古屋遺跡は、湯川の左岸段丘面上に展開し、南には岩尾城跡が存在する。調査対象地は、下北古屋遺跡の西に隣接し、遺跡の北側を蛇行しながら流れる湯川左岸の堤に接する地域にあたる。

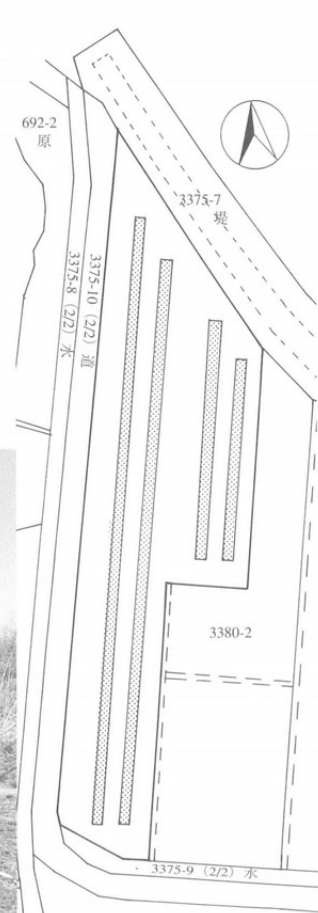
今回、佐久市による農業集落排水事業が行われることとなり、遺構の有無を確認するため試掘調査を行った。

調査の結果

調査区に南北方向のトレンチを4本設定し、遺構の確認を行ったが、遺構・遺物は認められなかった。



下北古屋遺跡（隣接）調査区全景



調査全体図 (1:1,000)

試掘調査

4 芝宮遺跡群 10

所在地 佐久市大字長土呂字南下中原 755 - 1

開発主体者 有限会社 エンドレスオート佐久

開発事業名 事務所・展示場建設

調査期間 平成10年 4月23・24・30日、5月20日

面積 1,458m²

調査担当者 三石 宗一



芝宮遺跡群 位置図 (1 : 10,000)

立地と経過

芝宮遺跡群は佐久市長土呂に所在し、田切地形に挟まれた台地上に立地する。今回の調査区の北側に隣接して、昭和63年度に南上中原・南下中原遺跡、平成5年度に南下中原遺跡Ⅱの発掘調査が行われ、古墳時代後期から平安時代の竪穴住居址14棟、掘立柱建物址5棟、竪穴遺構3棟のほか土抗・溝状遺構・旧河川等が調査されている。

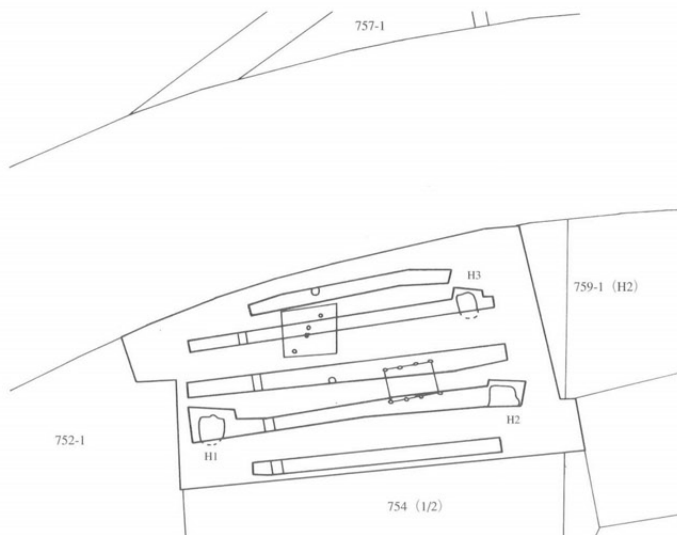


(西方から)

今回、有限会社エンドレスオート佐久により事務所の建設が行われることになり、遺構の有無を確認するため試掘調査を実施した。

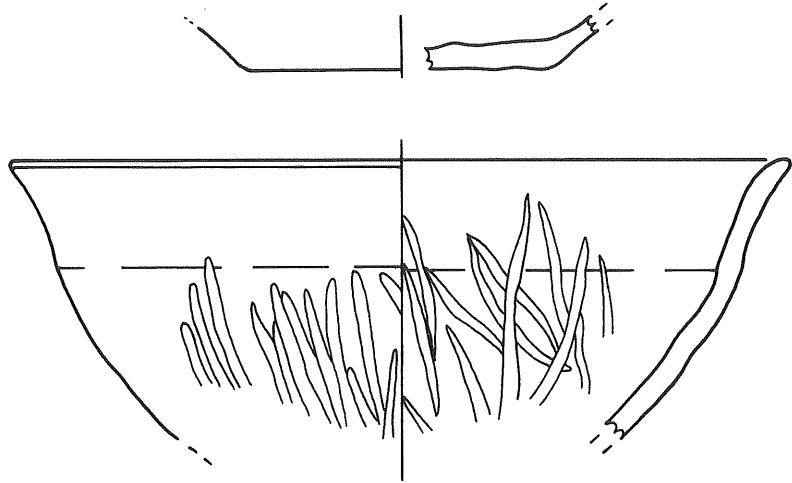
調査の結果

調査は調査区内に東西5本のトレンチを掘り下げ、遺構の確認を行った。調査の結果、調査区内東端を除いて表土下約40cmより黒色土の堆積が認められ、黒色土上から竪穴住居址1棟、掘立柱建物址1棟、土抗2基、溝状遺構1条、ピット1基が確



芝宮遺跡群 調査全体図 (1 : 1000)

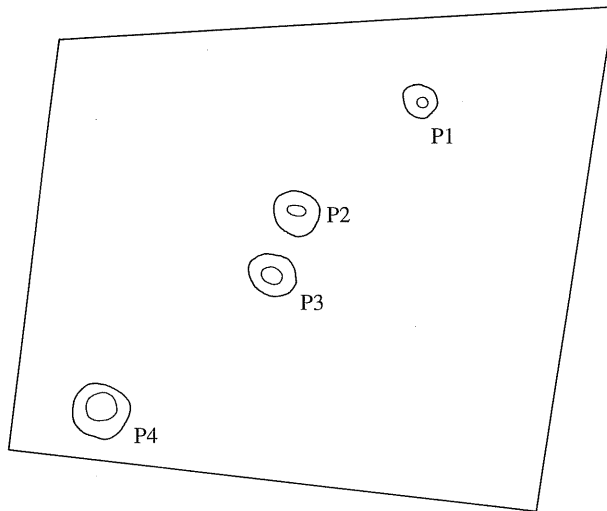
認され、東端部の
 ローム層上から豎
 穴住居址 2 棟が検
 出された。確認さ
 れた豎穴住居址 3
 棟はいずれも平安
 時代のもと考え
 られ、黒色土下
 に平安時代以前の
 遺構が存在する可
 能性も考えられる。
 遺物では古墳時代
 から平安時代にか
 けての遺物が確認



出土遺物実測図 (1:2)

され、その中から須恵器の坏と古墳時代のもと思われる土師器の鉢を図化した。

試掘調査の結果、一部設計に変更がなされ、発掘調査はピット 4 基のみで行うこととなり、他の遺構は現状保存されることとなった。



発掘調査範囲実測図 (1:100)

試掘調査

5 松ノ木遺跡Ⅲ

所在地 佐久市大字岩村田字松ノ木 1453-3 他

調査委託者 株式会社マルカワ

開発事業 店舗建設建設工事

調査期間 1998年6月11・12日

面積 2,902m²

調査担当者 林 幸彦



松ノ木遺跡Ⅲ位置図

立地と経過

松ノ木遺跡は、佐久市立浅間中学校の西側に隣接し、標高は695mを測る。

付近は新幹線佐久平駅周辺区画整理事業によって地形が大きく変化している。遺跡付近では田切り地形が消滅し、一見平坦な地形を見せている。が、塚原泥流の残丘地形が埋没しており決して単調な平地ではないことが、いくつかの発掘調査によりわかっている。残丘周辺の平坦地と北東から残丘に伸びる微高地、それを取り巻く低地といった地形が随所にみられる。残丘周辺の平坦地及び微高地上からは、多くの集落が検出されている。

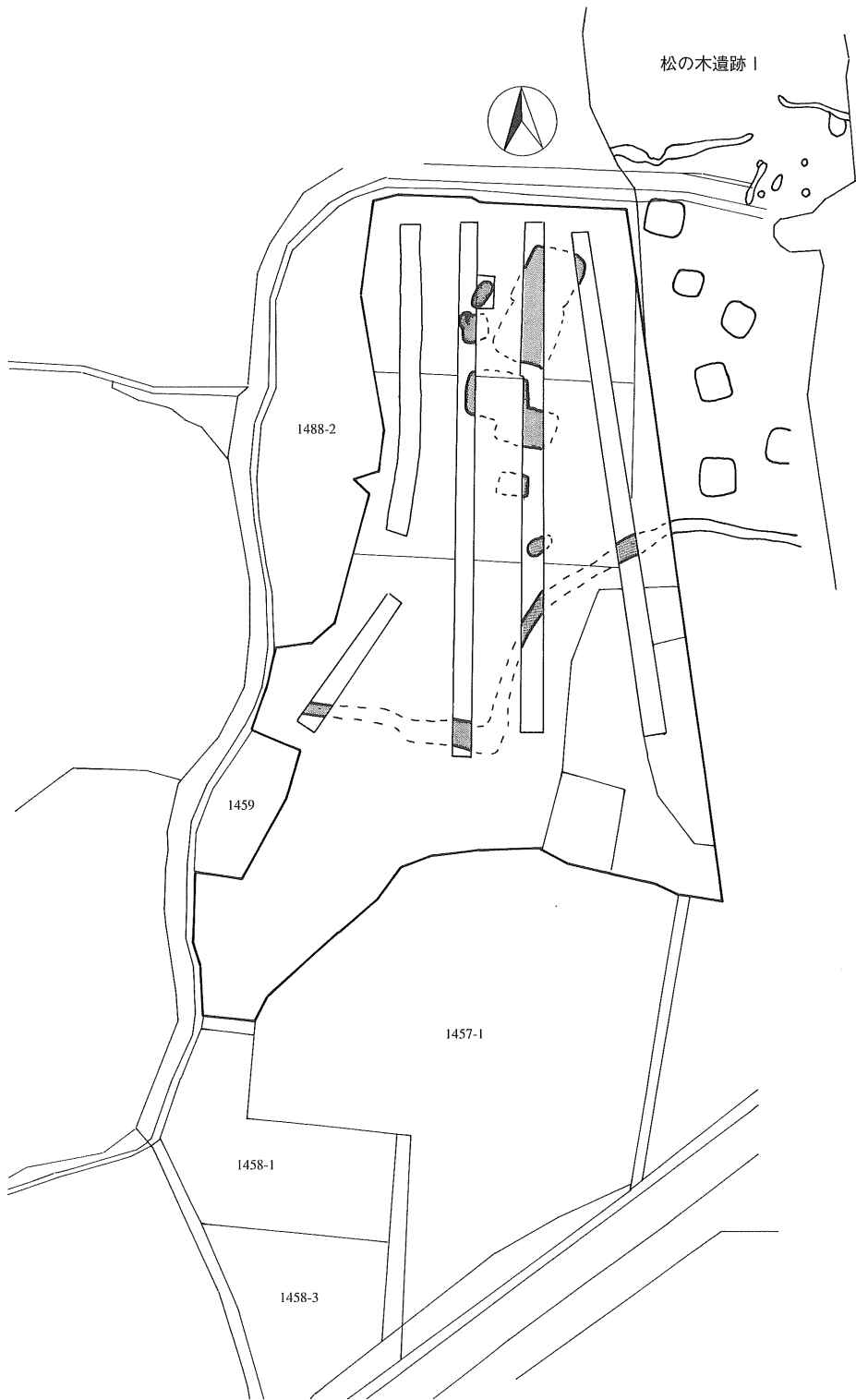
対象地南端の塚原泥流の残丘から北東に向けて、周辺の水田より2m程高い微高地が形成されている。幅30m程度の細長い小規模な微高地である。国道141号バイパス工事に先立ち、1996年に調査された松ノ木遺跡Ⅰの西隣である。松ノ木遺跡Ⅰでは、弥生時代終末～古墳時代初頭の竪穴住居址6棟他が検出された。

株式会社マルカワの店舗建設にあたり、事前に試掘調査を実施し遺構の状況を把握した。

調査の概要

東西に2本、南北に5本のトレンチを入れて遺構の確認をした。その結果、竪穴住居址とみられる落ち込みが5カ所、調査地の南部に弧を描きながら東西に渡る溝状遺構が1カ所検出された。弥生時代終末から古墳時代初頭の土器が出土した。

保護協議の結果、削平される部分が多いため引き続き本調査を実施することになった。



松ノ木遺跡Ⅲ調査全体図 (1 : 500)

試掘調査

6 西大久保遺跡群 8

所在地 佐久市大字下平尾字六間 529・530
開発主体者 有限会社 田園不動産
開発事業名 宅地造成
調査期間 平成10年6月24日
面積 2.022m²
調査担当者 小林真寿



西大久保遺跡群位置図 (1:10,000)

経過と立地

西大久保遺跡群は、佐久市東部平尾地区の標高730m前後を測る「田切台地上」に展開する。上信越自動車道関連の調査により、遺跡群内の東大久保、西大久保、腰巻遺跡などが調査され、古墳時代や平安時代の集落址が存在することが明らかとなった。

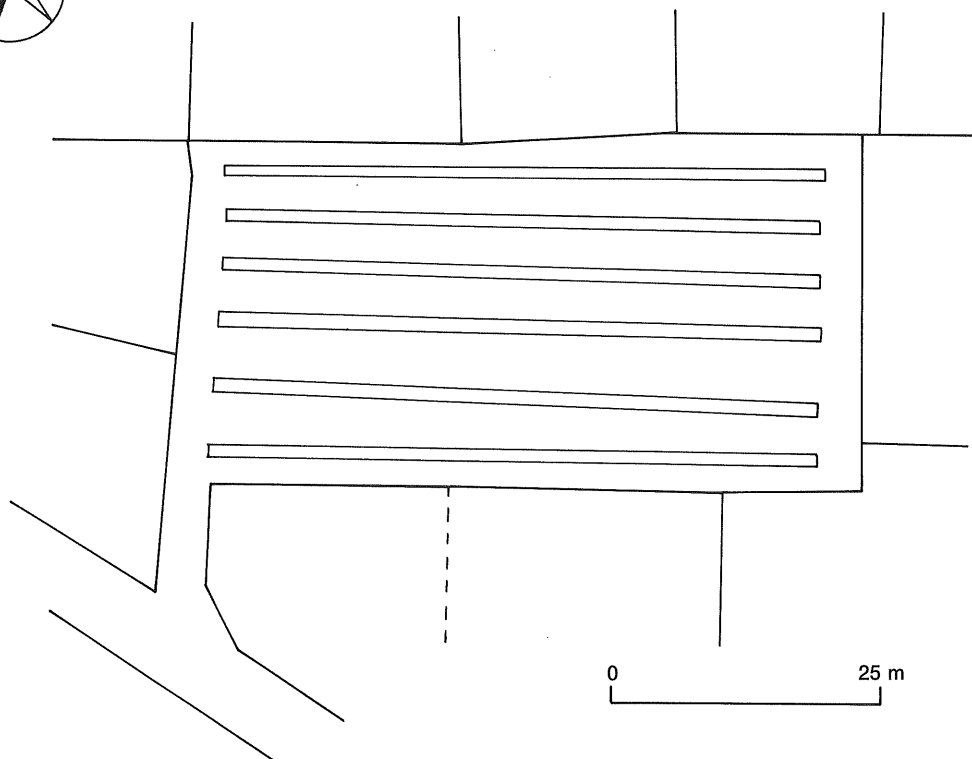
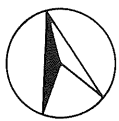
今回、遺跡群内において有限会社田園不動産による宅地造成事業が計画されたため、試掘調査を実施した。

調査の結果

調査地内に幅1mのトレンチを6本設定して試掘調査を行った結果、遺構は存在しなかった。遺物は平安時代と思われる土師器の小片が2点採取された。



調査風景



西大久保遺跡群 8 全体図

試掘調査

7 中久保田遺跡 5

所在地 佐久市大字岩村田北一丁目15-3

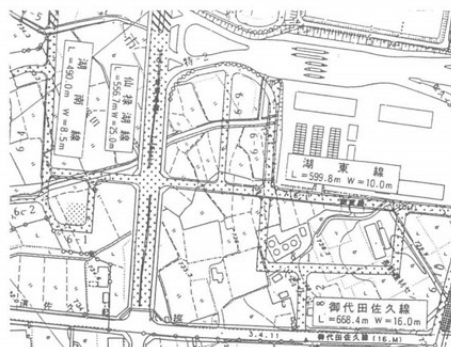
開発主体者 江元 千浩

開発事業名 共同住宅建設

調査期間 平成10年7月6日

面積 399m²

調査担当者 三石 宗一



中久保田遺跡位置図 (1:10,000)

立地と経過

中久保田遺跡は佐久市岩村田に所在し、標高約730m付近を測る。この周辺は上信越自動車道の開発にともない急速な発展を遂げた地域であり、それらに先立った発掘調査が多く行われた。

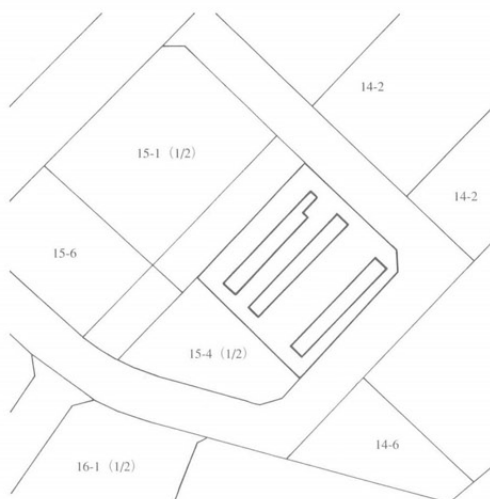
今回、江元千浩氏により共同住宅建設事業が行われることとなり、遺構の有無を確認するため試掘調査を実施した。

調査の結果

調査区内に東西3本のトレンチを掘り下げ遺構の確認を行ったが、遺構・遺物ともに発見されなかった。



(西方から)



中久保田遺跡調査全体図 (1:1,000)

試掘調査

8 中原遺跡群 17

所在地 佐久市大字中込字大日 3713 - 18
開発主体者 市川 純江
開発事業名 店舗建設
調査期間 平成10年 7月17日
面積 1,405.67m²
調査担当者 三石 宗一



中原遺跡群位置図 (1:10,000)

立地と経過

中原遺跡群は佐久市中込に所在し、千曲川の支流滑津川右岸の切り立った段丘上に立地し滑津川河床からの比高差は約30mを測る。遺跡群内南西には佐久地方最大の横穴式石室を有する三河田大塚古墳が南側に開口して存在し、また昭和58・59年に行われた佐久市遺跡群詳細分布調査では縄文時代から中世にかけての遺物が採集されている。本遺跡群内では梨の木遺跡Ⅰ(昭和62年度)・Ⅱ(昭和63年度)・Ⅲ(平成8年度)・Ⅳ(平成9年度)の発掘調査が行われ、弥生時代中期と考えられる土抗、中近世の竪穴遺構・溝状遺構・柱穴址等が調査されている。

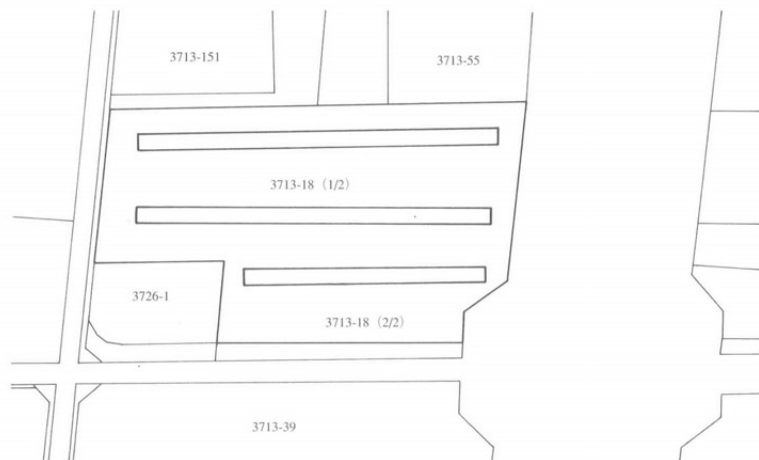


(東方から)

今回、市川純江氏により店舗建設事業が行われることとなり試掘調査を実施した。

調査の結果

調査区内に東西3本のトレンチを掘り下げ遺構の確認を行ったが遺構遺物ともに確認されなかった。



中原遺跡群 17 調査全体図 (1:1,000)

試掘調査

9 中原遺跡群 18

所在地 佐久市大字三河田字大塚 434 - 1・2
開発主体者 ナコー開発株式会社
開発事業名 宅地造成
調査期間 平成10年7月17日
面積 2,085m²
調査担当者 三石 宗一



中原遺跡群位置図 (1:10,000)

立地と経過

中原遺跡群は佐久市中込に所在し、千曲川の支流滑津川右岸の切り立った段丘上に立地し、滑津川河床からの比高差は約30mを測る。遺跡群内南西端には佐久地方最大の横穴式石室を有する三河田大塚古墳が南側に開口して存在し、また、昭和58・59年に行われた佐久市遺跡詳細分布調査では、縄文時代から中世にかけての遺物が採集されている。

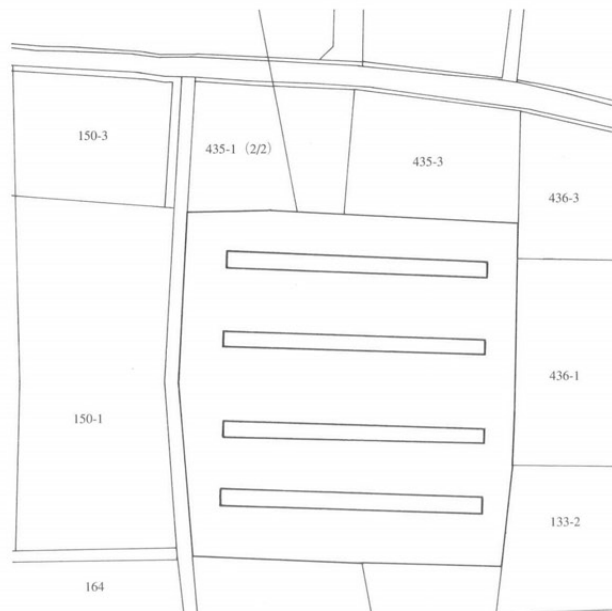


(東方から)

今回、ナコー開発株式会社によって宅地造成事業が行われることになり、遺構の有無を確認するため試掘調査を実施した。

調査の結果

調査区内に東西4本のトレンチを掘り下げ遺構の確認を行ったが、遺構・遺物ともに発見されなかった。



中原遺跡群 18 調査全体図 (1:1,000)

試掘調査

10 芝宮遺跡群 11

所在地 佐久市大字長土呂字南下中原
751 - 1・752 - 1

開発主体者 株式会社 竹花組

開発事業名 貸店舗建設

調査期間 平成10年7月27・28日

面積 1,525㎡

調査担当者 三石 宗一



芝宮遺跡群 位置図 (1 : 10,000)



(東方から)

立地と経過

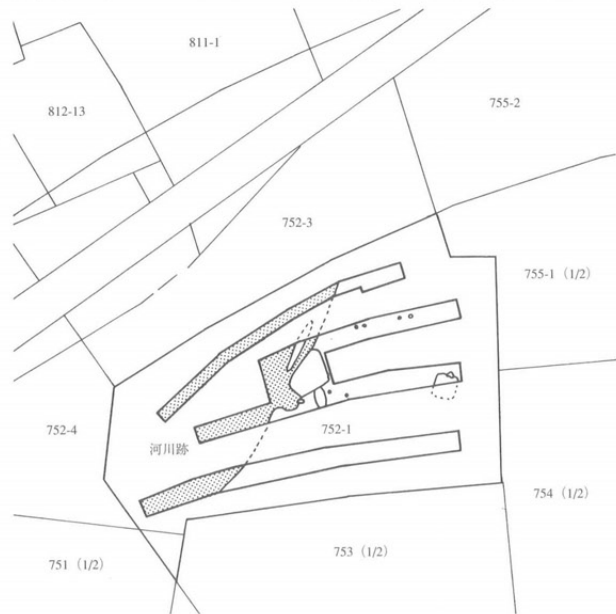
芝宮遺跡群は佐久市長土呂に所在し、田切地形に挟まれた台地上に立地する。本遺跡群では古墳時代から平安時代にかけての集落跡が確認されており、芝宮遺跡群と東側で隣接し、北側では昭和63年度に南下中原・南下中原遺跡、平成5年度に南下中原遺跡Ⅱの発掘調査が行われている。

今回、株式会社竹花組により貸店舗建設事業が行われることになり、遺構の有無を確認するため試掘調査を実施した。

調査の結果

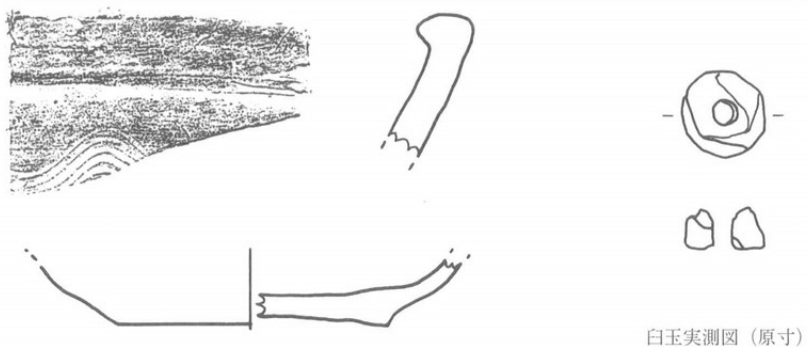
調査区内に東西4本のトレンチを掘り下げ遺構の確認を行い、調査の結果、竪穴住居址2棟、土抗2基、ピット7基、旧河川跡1条が検出された。また遺物では古墳時代から平安時代にかけてのものと思われる土師器・須恵器の坏・甕と、白玉が確認されており、その中から須恵器の坏と甕、白玉を図化した。

試掘の結果、保護協議が行われ建物部



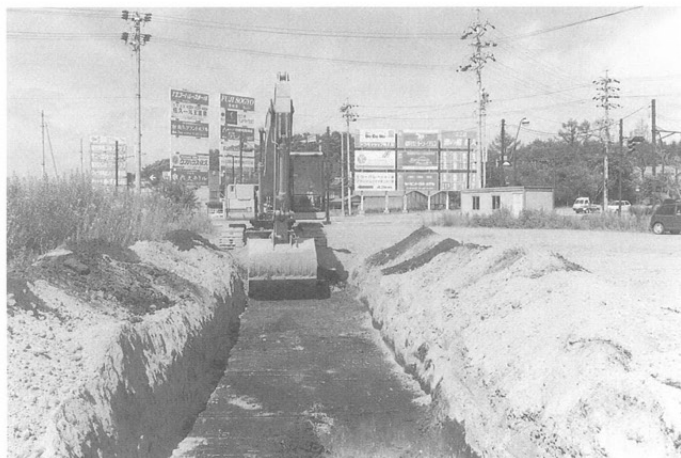
芝宮遺跡群 11 調査全体図 (1 : 1,000)

分は遺構に影響のない位置へ建設され、そのほかの部分については保護措置がとられることとなった。



白玉実測図 (原寸)

出土遺物実測図 (1:2)



(東方から)



(東方から)

試掘調査

11 枇杷坂遺跡群 15

所在地 佐久市大字岩村田字諏訪宮
1119-3・7 外

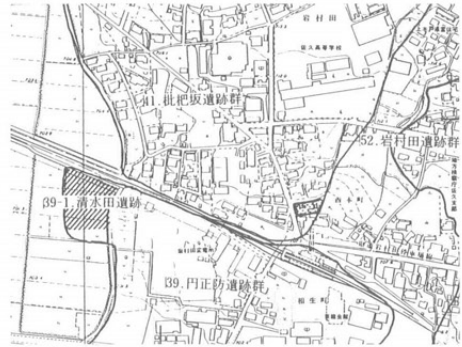
開発主体者 佐久市（区画整理課）

開発事業名 岩村田西本町沿道土地区画整理事業

調査期間 平成10年9月17日

面積 481m²

調査担当者 三石 宗一



枇杷坂遺跡群 位置図（1：10,000）

立地と経過

枇杷坂遺跡群は、佐久市岩村田に所在し、市街地西側、田切り地形の台地上に位置する。遺跡群内では過去に琵琶坂遺跡・上直路遺跡・円正坊遺跡などが調査されており、特に、上直路遺跡では弥生時代後期前半の焼失住居址から屋内墳墓が発見され、そこから高坏1個・甕3個体とともに15本の銅釧が発見された。

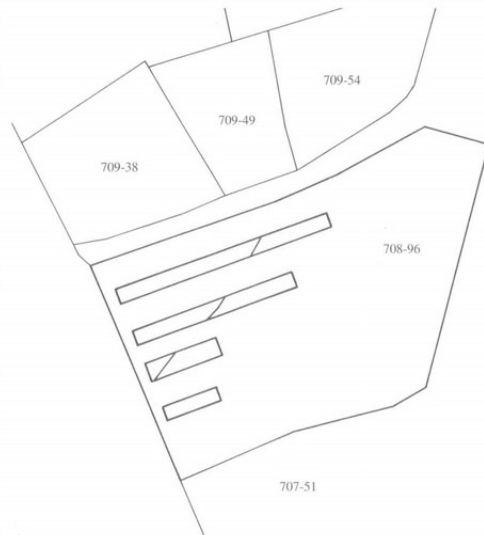
今回、佐久市区画整理課が岩村田西本町沿道土地区画整理事業を計画したので、事前に試掘調査を実施した。



（西方から）

調査の結果

調査区内に東西4本のトレンチを掘り下げ遺構の確認を行った。調査の結果、調査地は当方に存在する低地の西側部分に当たり、西端部では埋土下約1mにローム層が認められたものの大半は黒色土のあつい堆積がみられ湧水の激しい状態であるため、遺構・遺物ともに発見されなかった。



枇杷坂遺跡群 15 調査全体図（1：1,000）

試掘調査

12 一本柳遺跡群 西一本柳遺跡Ⅶ

所在地 佐久市大字岩村田字常木
2339-7、2339-1 他

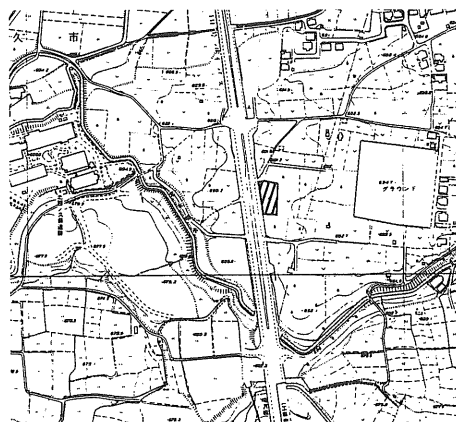
開発主体者 笹沢 幸司

開発事業名 店舗兼住宅建設

調査期間 平成10年 9月22日～10月23日

面積 977m²

調査担当者 森泉かよ子



西一本柳遺跡Ⅶ位置図

経過と立地

一本柳遺跡群は、佐久市岩村田地籍に所在し、東西方向に流れる湯川の右岸の台地上にある。岩村田市街地の南西1 km、標高690 m前後を測り、浅間第1軽石流を地盤とし、田切り地形が発達している地点である。一本柳遺跡群は田切り上を南西に展開し、中央から西半分を西一本柳遺跡、東半分を東一本柳遺跡、中央部北部を北一本柳遺跡と呼称している。この地域は市街地に近いため宅地化が進んでおり、本遺跡群内では東一本柳遺跡が昭和43年度に宅地造成に伴い発掘調査が実施され、古墳時代後期の竪穴住居址5棟が検出された。それをはじめとして昭和46年度東一本柳古墳の調査では青銅板に金張りを施した馬具の飾り金具を出土し、北一本柳遺跡、西一本柳遺跡Ⅰ、さらに北西ノ久保遺跡の発掘調査が行われ、弥生中期～平安時代の集落や弥生～近世の墳墓等が数多く検出されている。本遺跡の周辺は、平成4年の公共下水道事業で西一本柳遺跡Ⅱ、平成7～10年度と同じく国道141号線の工事に伴い西一本柳遺跡Ⅲ～Ⅶとして調査され、密集した古代集落が検出されている。

弥生時代中期から中世に至るまでの人々の痕跡が残され、佐久市内で有数な遺跡の一つである。本遺跡群の周辺についてみると、東方に上の城遺跡群・岩村田遺跡群の古墳時代から中世にわたる集落みられる。本遺跡との間には低地が存在している。遺跡群全体が低地に囲まれた環濠集落状の台地だったようである。南に湯川を望み、北にも川が流れる低地をもつ自然条件に恵まれた所であった。本遺跡群に含まれるであろう南東の常木用水を挟んで一段下がった中西の久保遺跡群からは古墳時代初頭の集落もみられる。

国道141号線は西一本柳遺跡を南北に貫くが、本遺跡はその東に隣接し南西に延びる台地の南

よりである。

今回、店舗兼住宅建設が計画され試掘調査を行った。

調査の結果

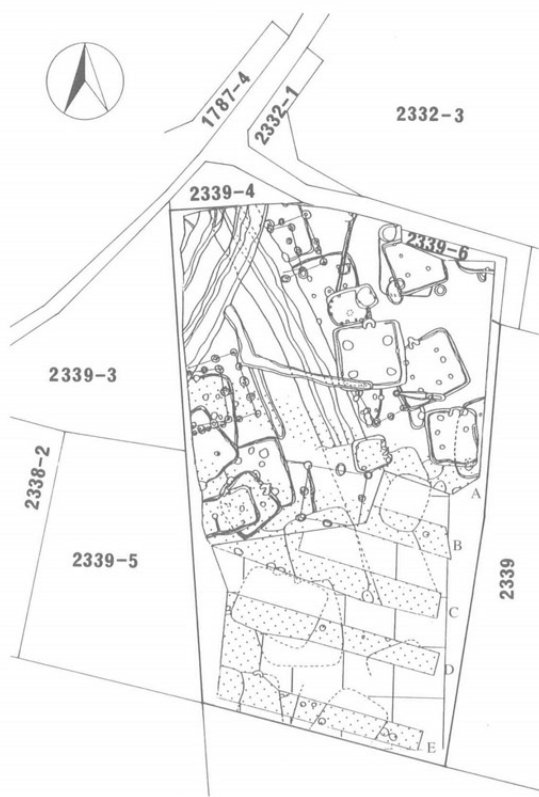
遺構

縦穴住居址	弥生時代13棟
	古墳時代10棟
	平安時代4棟
	不明 2棟
掘立柱建物址	5棟
土坑	8基
溝状遺構	6本
単独ピット	

主な出土遺物

弥生時代中期後半土器
弥生終末土器群
古墳時代後期土器・白玉
平安時代土器

遺構の重複が激しく、トレンチによるプラン確認では十分に把握できなかった。店舗部分は発掘調査し、南の駐車場部分は埋土保存する事となった。



西一本柳遺跡Ⅶ 全体図 (1:600)



遺構検出状況 (Bトレ、西より)



遺構検出状況 (Eトレ、東より)

試掘調査

13 平賀中屋敷遺跡群 4

所在地 佐久市大字平賀字中屋敷 5332-2 外2筆

開発主体者 佐久市児童課

開発事業名 佐久城山児童館

調査期間 平成10年9月29日

面積 657m²

調査担当者 羽毛田卓也



平賀中屋敷遺跡群位置図 (1:10,000)

立地と経過

平賀中屋敷遺跡群は佐久市南部平賀集落内に展開する弥生～平安時代にかけての複合遺跡である。今回の調査地点は、遺跡群西側中央に位置する。今回佐久市児童課による佐久城山児童館建設事業が計画されたため試掘調査を行った。

調査の結果

対象地の南北方向に1本、東西方向に4本のトレンチを掘削した結果、平安時代の住居2軒・古墳時代の住居1軒・時代不明の墓坑3基・井戸1基が確認された。遺構確認までの土層は南北トレンチで観察し、3層に分割された。第1・2層はアスファルト・碎石層で55cm、第3層は旧耕作土層で18cmを測る。確認面は砂礫・褐色シルトを微量含む褐色ローム層である。遺物は古墳・平安時代の土器・人骨などが出土した。



トレンチ掘削状況

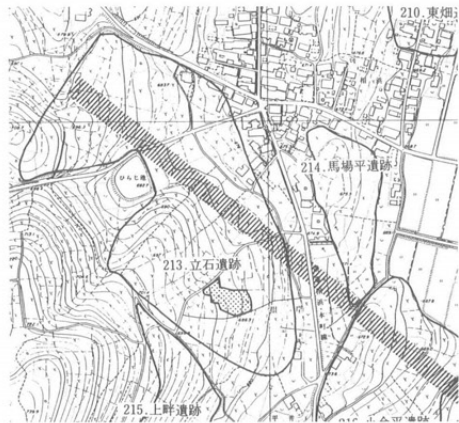


平賀中屋敷遺跡群全体図 (1:1,000)

試掘調査

14 立石遺跡 6

所在地 佐久市大字根岸字立石 3871・3872 - 4
開発主体者 株式会社中木屋
開発事業名 レストラン・展望タワー建設
調査期間 平成10年9月29日
面積 5,926.95m²
調査担当者 須藤 隆司



立石遺跡位置図 (1:10,000)

立地と経過

立石遺跡は、佐久市大字根岸に所在し、北八ヶ岳山麓末端の扇状地状台地に立地する。本遺跡では、分布調査で縄文・古墳時代・中世の遺物が採集されている。また、昭和56年の道路建設に伴う調査では、時期未確定の土坑が検出された。

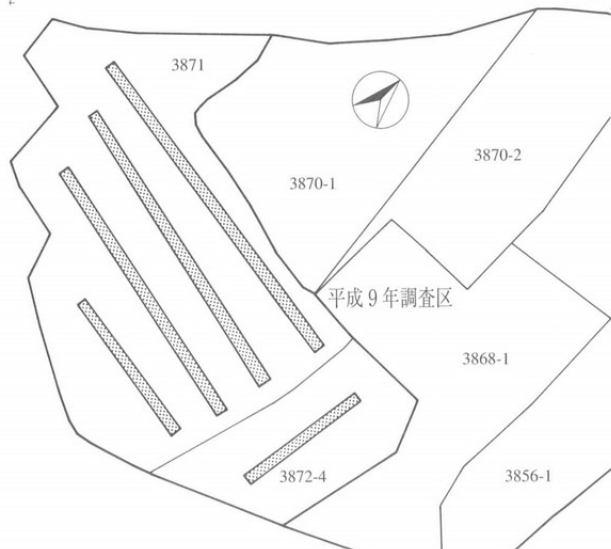


立石遺跡調査地点 (西方から)

今回、株式会社中木屋によるレストラン・展望タワー建設が遺跡内に計画されたため、事前に試掘調査を行った。

調査の結果

右図のように傾斜方向を主体にトレンチ5本を設定し、遺構・遺物の確認調査を行った。この調査区周辺の斜面地では、平成9年に試掘調査を実施したが、遺構・遺物は確認されていなかった。今回の調査においても、同様に遺構・遺物は検出されず、東南部斜面地には、遺跡の広がり存在しないことが確認された。



立石遺跡調査全体図 (1:1,000)

試掘調査

15 中原遺跡群 19

所在地 佐久市大字中込字中原 3639 - 31

開発主体者 有限会社 信州銘木

開発事業名 倉庫建設

調査期間 平成10年10月1日

面積 661m²

調査担当者 三石 宗一



中原遺跡群 位置図 (1 : 10,000)

立地と経過

中原遺跡群は佐久市中込に所在し、千曲川の支流滑津川右岸の切り立った段丘上に立地し、滑津川河床からの比高差は約30mを測る。遺跡群南西端には佐久地方最大の横穴式石室を有する三河田大塚古墳が南側に開口して存在し、また、昭和58・59年に行われた佐久市遺跡群詳細分布調査では縄文時代から中世にかけての遺物が採集されている。

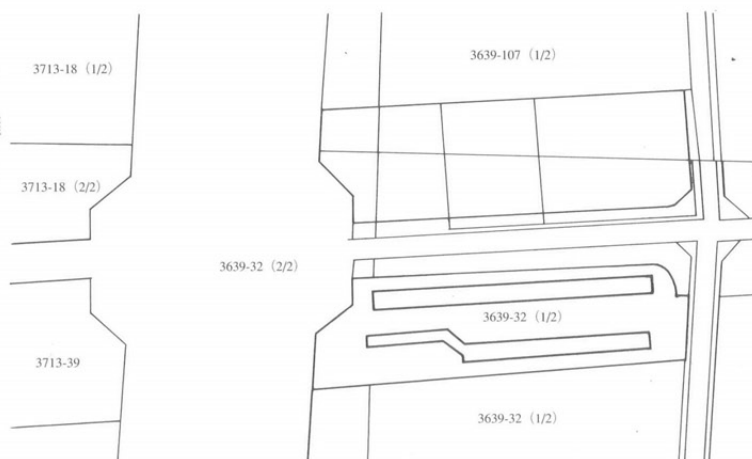


(北方から)

今回、有限会社信州銘木により倉庫建設事業が行われることになり、遺構の有無を確認するため試掘調査を実施した。

調査の結果

調査区内に東西2本のトレンチを掘り下げ遺構の確認を行ったが遺構・遺物ともに確認されなかった。

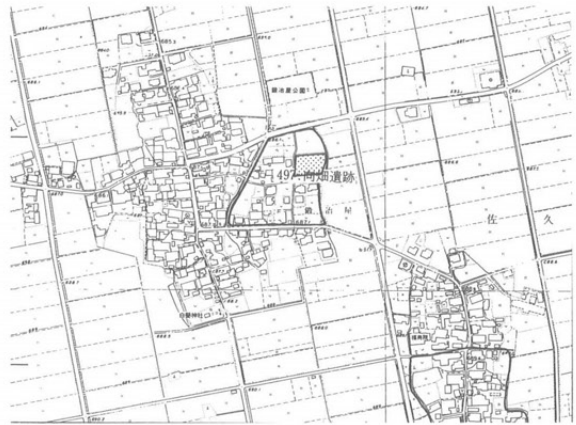


中原遺跡群 19 調査全体図 (1 : 1,000)

試掘調査

16 向畑遺跡 2

所在地 佐久市大字鍛冶屋字向畑 253
開発主体者 株式会社新津組佐久支店
開発事業名 宅地造成
調査期間 平成10年10月8日
面積 1,263.66m²
調査担当者 上原 学



向畑遺跡群位置図 (1:10,000)

立地と経過

向畑遺跡は、佐久市鍛冶屋地積の千曲川左岸に発達した沖積地上に位置する。標高は687m内外を測る。

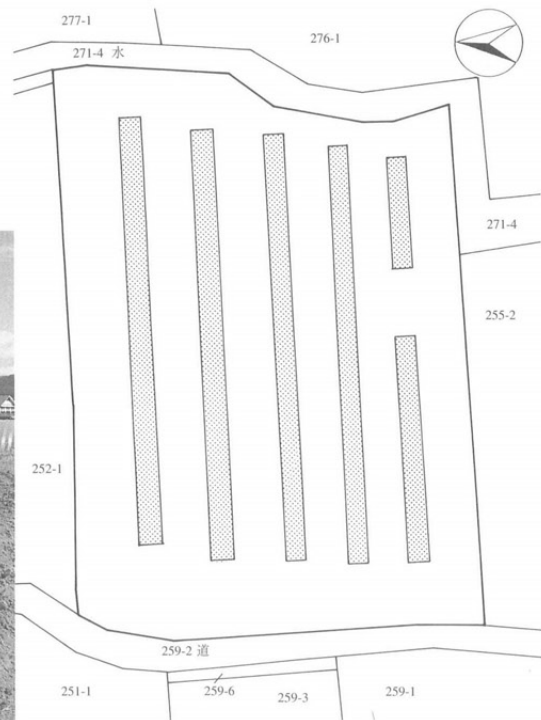
今回、株式会社新津組佐久支店による宅地造成が行われることとなり、遺構の有無を確認するため試掘調査を行った。

調査の結果

調査区に東西方向のトレンチ5本を設定し遺構の確認を行ったが、遺構・遺物ともに認められなかった。



向畑遺跡調査風景

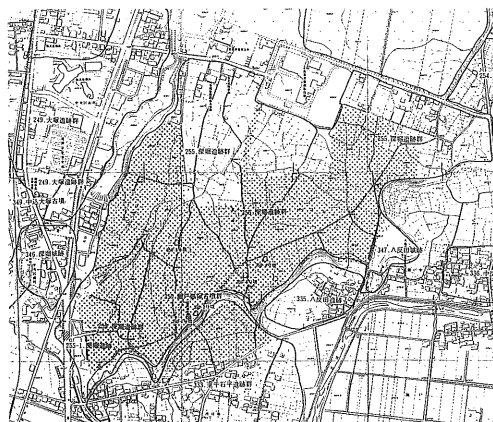


向畑調査全体図 (1:500)

試掘調査

17 深堀遺跡群他

所在地 佐久市大字瀬戸 1218.1062-4 他
開発主体者 佐久地方事務所
開発事業名 県営農村活性化住環境整備事業
調査期間 平成10年 9月28日～10月23日
面積 32.000m²
調査担当者 富沢 一明



深堀遺跡群他位置図 (1:20,000)

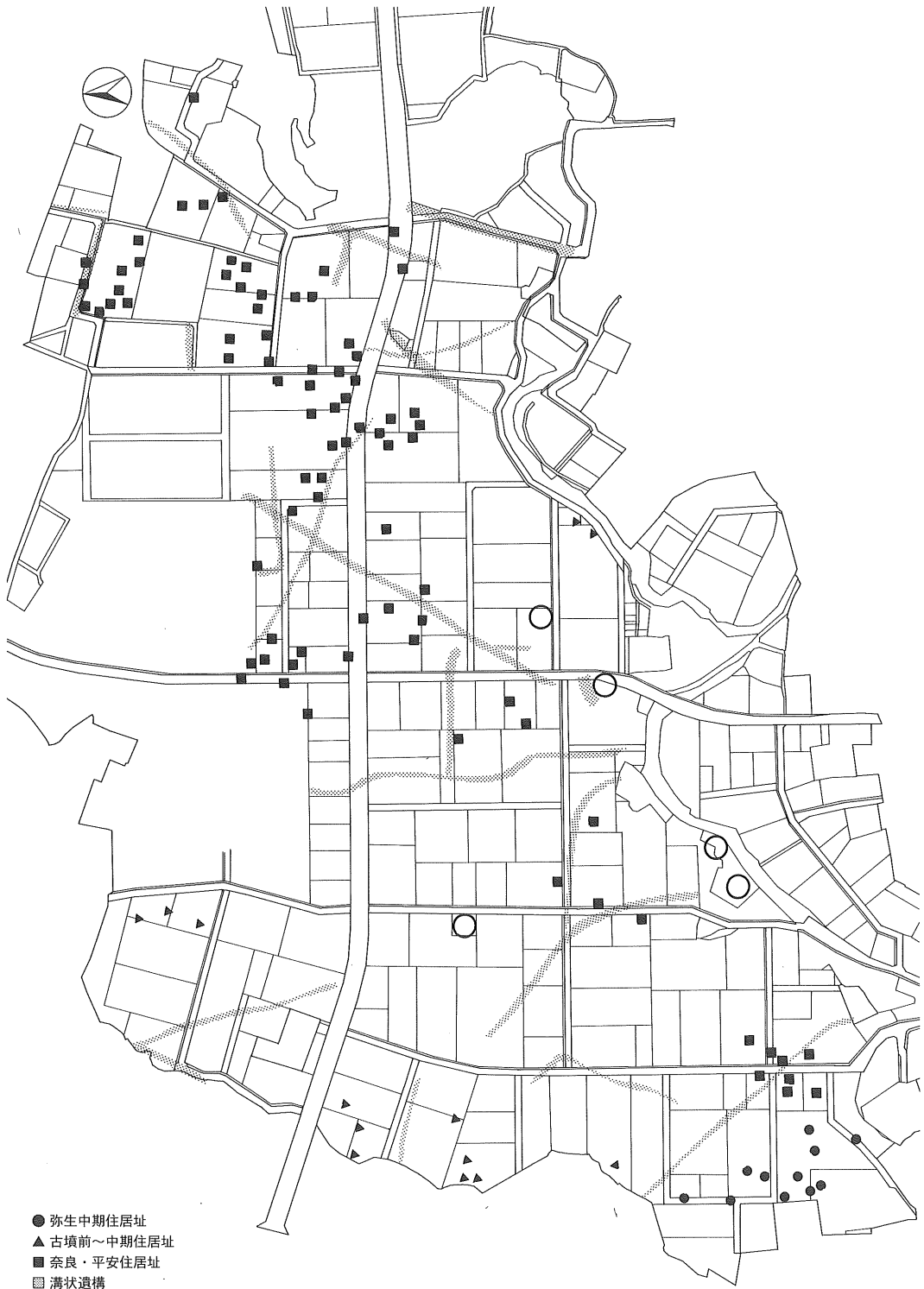
立地と経過

深堀遺跡群は佐久市大字瀬戸に所在し、東方は志賀川、西方は田切り地形に挟まれた台地上に展開する大遺跡群である。標高は670～690 mを測る。本遺跡群内では昭和40年度に国道141号バイパス工事に伴い深堀遺跡の発掘調査が行われ、弥生時代中期の竪穴住居址2棟が調査されている。また、台地の南側には瀬戸狐塚古墳群、東端部には八反田城跡が存在する。東千石平遺跡群は深堀遺跡群の南に隣接して存在し、標高670 m内外を測る。

今回、両遺跡群内で瀬戸原農村活性化住環境整備事業が計画されたため、遺跡群の遺構分布状況を把握するため試掘調査を行った。尚、試掘調査は32.000m²を国庫補助事業とし、対象地残り297.000m²は当事業負担とした。また、報告にあたっては試掘調査全体の成果を一括して記載する事が今後の資料として有益であるため調査全体図として作成した。

調査の結果

今回の調査は、昨年試掘調査が行われた集落1号線（深堀遺跡群内29本・東側水田部分8本）と集落2号線（深堀遺跡群内12本・東千石平遺跡群内3本）をのぞく全対象地について地籍ごとに試掘トレンチを掘り下げ遺構の確認を行った（試掘時、果樹園及び耕作中の畑地は調査していない。）以下調査の結果を時代別に概観すると、まず縄文期の遺構は検出されなかったが、台地西際で加曽利期の土器片が表採された。次に台地南側の深堀地籍では弥生中期の住居址が約11軒検出された。続く古墳前期～中期の住居址は台地西側と南側にそれぞれ検出され小集落を形成しているようである。台地全体に広がる集落址は主に平安期の住居址群で台地東側がやや密な分布を示している。また、台地全体からは無数の溝状遺構が検出された。これらは形態やその分布から台地東端にある八反田城跡や西側の深堀城跡に関係する中世遺構も多いと考えられる。古墳址は対象地内に5基存在する事が知られているが、この内試掘調査を行ったものは3～5号墳で、周溝は4・5号墳で確認できた。



深堀遺跡群他調査全体図 (1:5,000)



調査区北側遠景（南より）



狐塚古墳群 4号墳遠景（北より）



弥生中期住居址検出状況（東より）



古墳中期住居址検出状況（東より）



平安住居址検出状況（南より）



溝状遺構検出状況（西より）

試掘調査

18 番屋前遺跡群 12

所在地 佐久市大字猿久保 27-1・3、30-1・31

開発主体者 長野県経済事業農業共同組合連合会

開発事業名 店舗、ガラス温室、倉庫建設

調査期間 平成10年10月29日～11月7日

面積 8,677.87m²

調査担当者 上原 学



番屋前遺跡群位置図 (1:10,000)

立地と経過

番屋前遺跡群は、佐久市猿久保地積の千曲川左岸に発達した段丘面上に展開する。標高は694m内外を測る。

今回、長野県経済事業農業協同組合による店舗建設工事が行われることとなり、遺構の有無を確認するため試掘調査を行った。

調査の結果

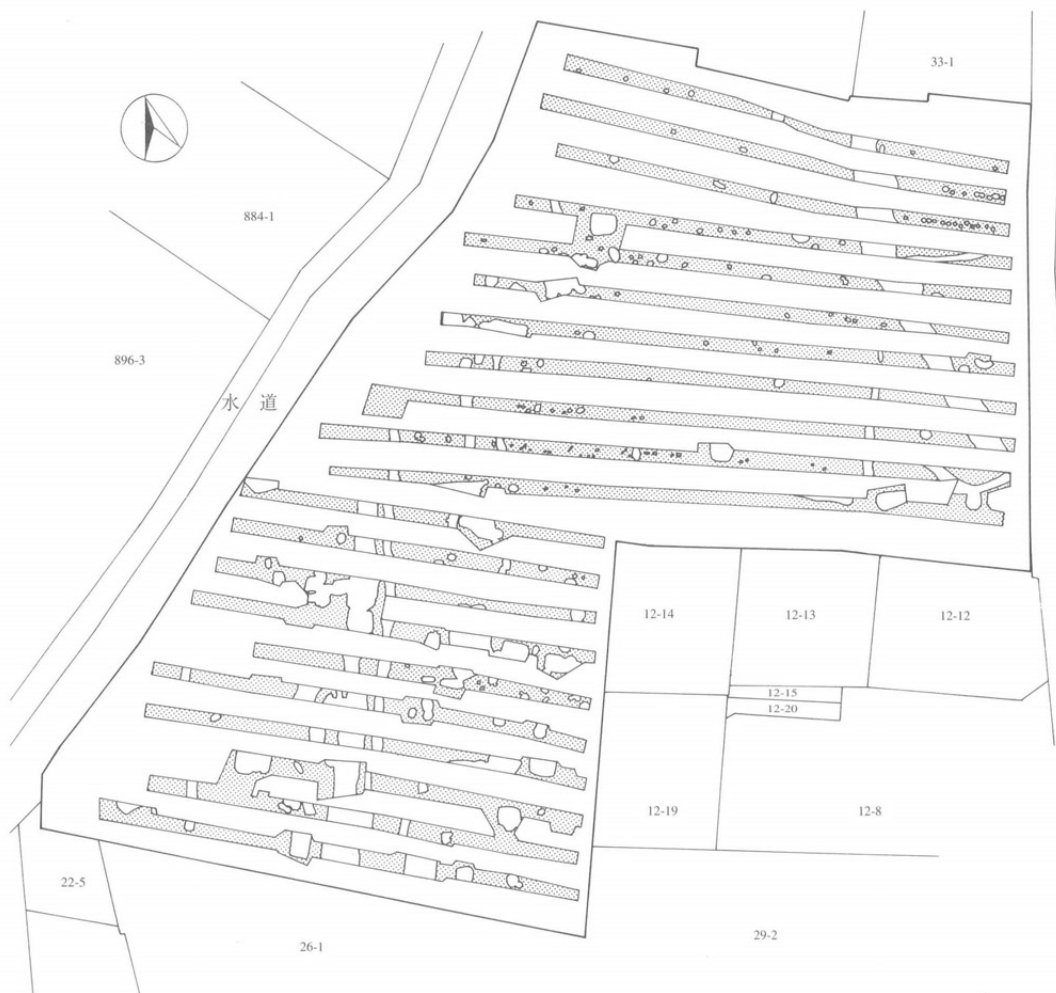
調査区に東西方向のトレンチを21本設定し遺構の確認を行った。その結果、中世と考えられる竪穴状遺構、ピット、溝が調査区全面にわたり多数確認できた。このため長野県経済事業農業協同組合連合会との協議により、店舗建設に伴い遺構の破壊が予測される北側半分について本調査を行い、南側については埋土保存する運びとなった。



番屋前遺跡群調査風景



番屋前遺跡群調査風景



番屋前遺跡群調査全体図 (1:1,000)



番屋前遺跡群遺構検出状況



番屋前遺跡群遺構検出状況

試掘調査

19 跡部儘田遺跡

・ 跡部町田遺跡

所在地 佐久市大字跡部字儘田
314 外

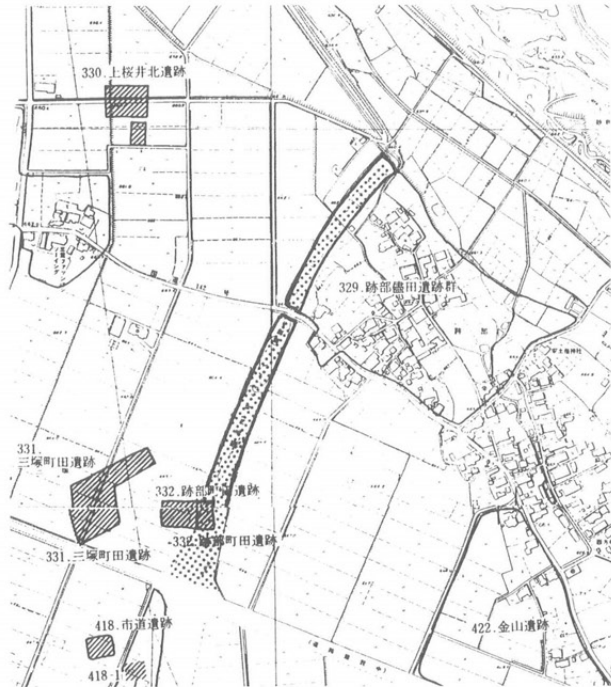
調査委託者 佐久市都市計画課

開発事業 都市計画道路小諸佐久
白田線道路改築工事

調査期間 1998年10月5日～
11月7日

面積 12,000m²

調査担当者 林 幸彦



跡部儘田遺跡・跡部町田遺跡位置図

立地と経過

遺跡は千曲川の第2河岸段丘と第3河岸段丘上にある。付近では、1975年（昭和50年）に跡部町田遺跡、1977年（昭和52年）に上桜井北遺跡が圃場整備に伴い記録保存調査されている。都市計画道路小諸佐久白田線改築工事に先立ち遺構の存在の把握のため試掘調査を実施した。

調査の結果

上桜井北遺跡と同一の段丘上である。跡部儘田遺跡の県道北側から、少なくとも30棟は越える竪穴住居址とみられる遺構が確認された。さらに、その北側の一段低い段丘上からも、数軒の竪穴住居址が検出された。遺物は、灰彩陶器、須恵器、土師器などが出土した。

県道の南側の跡部町田遺跡のほとんどは、圃場整備後の土取や廃棄物の埋め立てにより、破壊されていた。一部遺構の残存するところがある。



跡部儘田遺跡・跡部町田遺跡調査近景（南方から）

試掘調査

20 中原遺跡群 20

所在地 佐久市大字中込字中原 3639 - 5・107

開発主体者 長野スバル自動車 株式会社

開発事業名 店舗建設

調査期間 平成10年11月9日

面積 1,993.74m²

調査担当者 三石 宗一



中原遺跡群位置図 (1 : 10,000)

立地と経過

中原遺跡群は佐久市中込に所在し、千曲川の支流滑津川右岸の切り立った段丘上に立地し、滑津川河床からの比高差は約30mを測る。遺跡群内南西端には佐久地方最大の横穴式石室を有する三河田大塚古墳が南側に開口して存在し、また、昭和58・59年に行われた佐久市遺跡詳細分布調査では、縄文時代から中世にかけての遺物が採集されている。

今回、長野スバル自動車株式会社により店舗建設事業が行われることとなり、遺構の有無を確認するため試掘調査を実施した。

調査の結果

調査区内に東西4本のトレンチを掘り下げ遺構の確認を行ったが、遺構・遺物ともに発見されなかった。



(西方から)

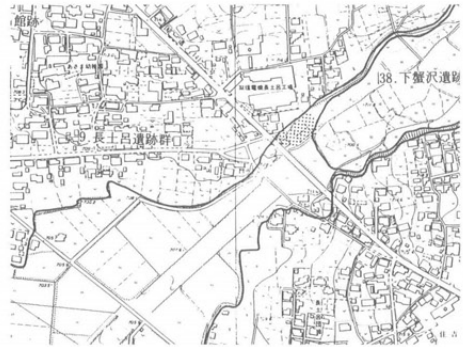


中原遺跡群 20 調査全体図 (1 : 1,000)

試掘調査

21 下蟹沢遺跡 3

所在地 佐久市長土呂字下蟹沢 260-1
264-2
開発主体者 株式会社 ゼンショー
開発事業名 店舗建設
調査期間 平成10年11月10日
面積 1,074.54m²
調査担当者 三石 宗一

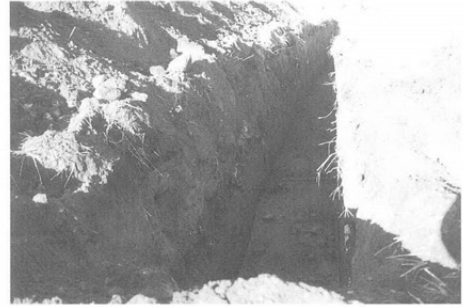


下蟹沢遺跡 位置図 (1:10,000)

立地と経過

下蟹沢遺跡は佐久市長土呂に所在し、佐久地方特有の、浅間山麓よりほぼ南北方向に発達する田切りと呼ばれる標高約713m付近の沢上に位置する。

今回、株式会社ゼンショーにより店舗建設事業が行われることとなり試掘調査を実施した。

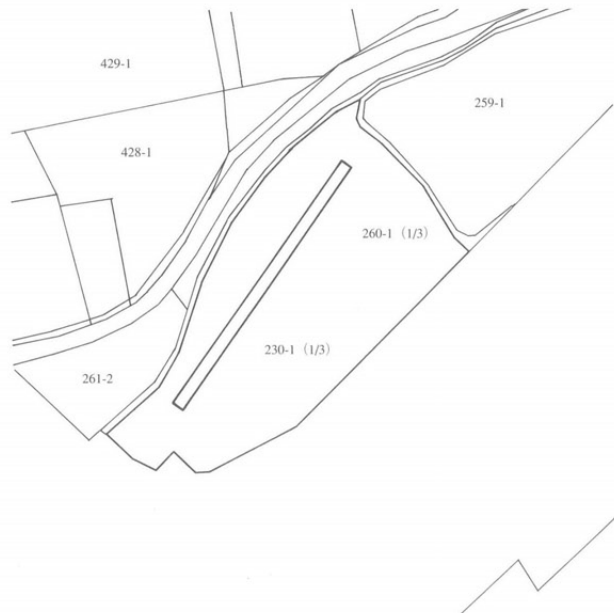


(南方から)

調査の結果

調査区内に南北方向1本のトレンチを掘り下げ遺構の確認を行った。本調査地は田切り地形の低地内に位置し、約30cmの表土下におよそ12mの盛土が行われ、さらに水田耕土、砂層が確認された。

遺構、遺物はともに確認されなかった。



下蟹沢遺跡3 調査全体図 (1:1,000)

試掘調査

22 松の木遺跡（隣接）

所在地 佐久市大字岩村田字下塚本 1355 - 1

開発主体者 中澤 達人

開発事業名 店舗建設

調査期間 平成10年11月10日

面積 1,772m²

調査担当者 三石 宗一



松の木遺跡（隣接）位置図（1：10,000）

立地と経過

本調査対象地は、西に隣接する松の木遺跡から国道141号線バイパス建設に伴う埋蔵文化財調査において、弥生～古墳時代の住居址などの遺構が検出されており、また、対象地より北東の方角に国蔵山古墳が隣接している。

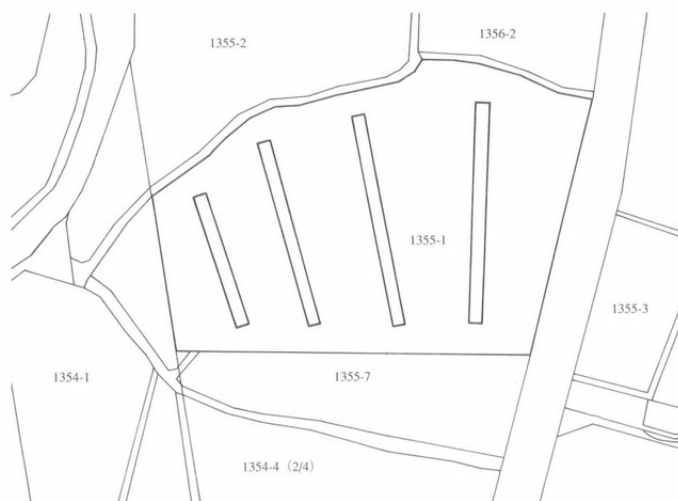
今回、中沢達人氏により店舗建設事業が行われることとなり、遺構の有無を確認するため試掘調査を実施した。



（南方から）

調査の結果

調査区内に南北4本のトレンチを掘り下げ、遺構の確認を行ったが遺構・遺物ともに発見されなかった。



松の木遺跡（隣接）調査全体図（1：1,000）

試掘調査

23 西近津遺跡群 2

所在地 佐久市大字長土呂字上大豆塚 1928、1993-18

開発主体者 丸山 啓一郎

開発事業名 共同住宅建設

調査期間 平成10年11月25日

面積 1,710m²

調査担当者 上原 学



西近津遺跡群位置図 (1:10,000)

立地と経過

西近津遺跡群は、佐久市岩村田市街地の北西1.2kmの台地上に展開する。調査対象地は、遺跡群を東西方向に横切るJR小海線中佐都駅の南に位置し、標高は698m内外を測る。

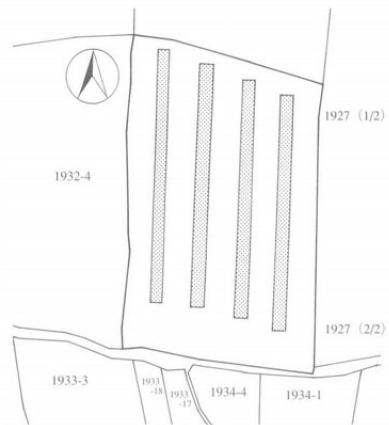
今回、共同住宅建設工事が行われることとなり、遺構の有無を確認するため試掘調査を行った。

調査の結果

調査区に南北方向のトレンチを4本設定し、遺構の確認を行った。その結果、現地表から2.4m(内上層の1.1mは埋土し整地したもの)の黑色土層上面において、弥生土器を数点出土したが、遺構は認められなかった。遺構確認面である黑色土は、粘性で湿気を持つ泥炭層であることから、遺跡付近には湿地帯が存在していたと考えられる。



西近津遺跡群調査区全景



西近津遺跡群調査全体図 (1:1,000)

試掘調査

24 金山遺跡（隣接）

所在地 佐久市大字跡部字双六 170 外 4 筆
開発主体者 中部電力株式会社
開発事業名 営業所建設
調査期間 平成10年12月14日～12月17日
面積 5,402.48m²
調査担当者 上原 学



金山遺跡遺跡位置図 (1:10,000)

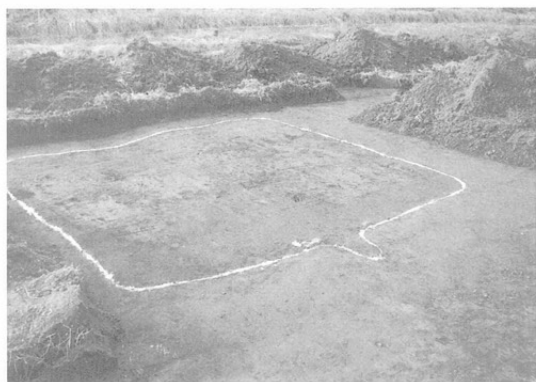
立地と経過

金山遺跡は、佐久市跡部地積の千曲川左岸に広がる沖積地上に展開する。標高は669 m内外を測る。

今回、中部電力株式会社による営業所建設工事が行われることとなり、遺構の有無を確認するため試掘調査を行った。

調査の結果

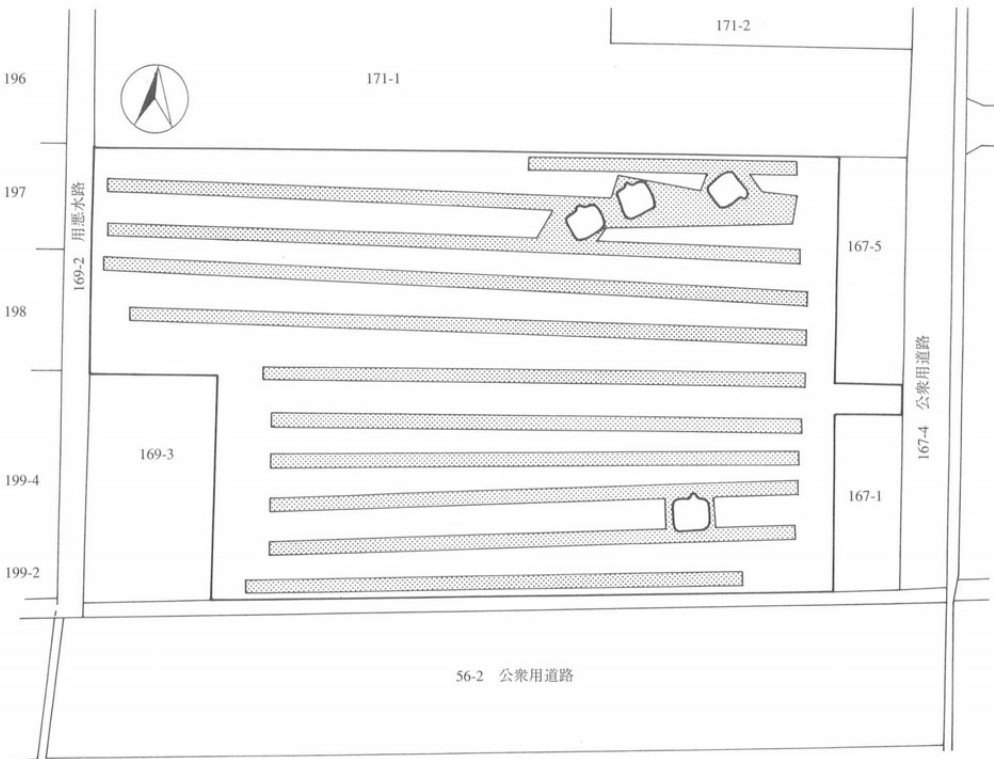
調査区に東西方向のトレンチを11本設定し、遺構の確認を行った。その結果、調査区の大半は砂礫層であったが、東側の一部にシルト質のきめ細かい砂の堆積帯が存在し、この上面から4軒の竪穴住居址を確認した。しかし、今回の営業所建設に伴う工事では、調査区内は1～2 mの埋土を行い、遺構検出地点上に構造物の建設は行われないことから、中部電力株式会社と協議の結果、住居址4軒については埋土保存する運びとなった。



金山遺跡検出竪穴住居址



金山遺跡検出竪穴住居址



金山遺跡調査全体図(1:1,000)

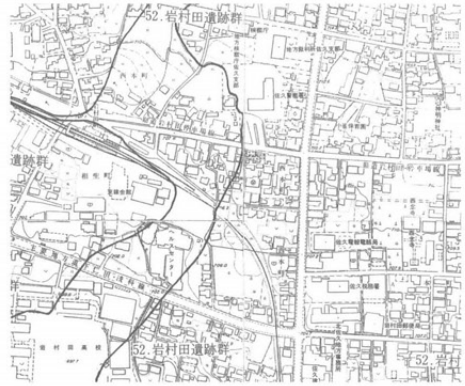


金山遺跡調査風景

試掘調査

25 岩村田遺跡群 22

所在地 佐久市大字岩村田字西本町 1154-4 他
開発主体者 佐久市（区画整理課）
開発事業名 岩村田西本町沿道土地区画整理事業
調査期間 平成10年12月17日
面積 400m²
調査担当者 富沢 一明



岩村田遺跡群 位置図 (1:10,000)

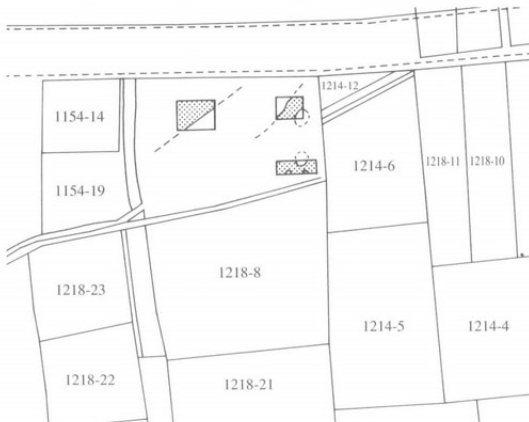
立地と経過

岩村田遺跡群は、岩村田市街地北半から仙祿湖東方まで展開しており、標高は702～737mを測る。北方の仙祿湖付近には、湯川の他に濁川などの河川による田切り地形が発達しており、急峻な谷がみられ、この田切りに挟まれた台地上には本遺跡群の他、枇杷坂遺跡群・周防畑遺跡群・長土呂遺跡群・芝宮遺跡群などをはじめとする多くの遺跡群が存在している。

今回、佐久市（区画整理課）により岩村田西本町沿道土地区画整理事業が行われることになり、遺構の有無を確認するため試掘調査を行うこととなった。

調査の結果

調査対象地に3カ所のトレンチを設定し遺構の確認調査を行った。その結果、中央部には浅い流路の跡と考えられる溝状遺構が確認された。また、対象地東側からは土鍋片や灰釉陶器片などを包含する層が30cmの厚さで確認された。これらの遺物は近世のものと考えられ、この包含層を掘り込むように土坑・ピットが検出された為、近世以降の遺構として捉え本調査は行わなかった。尚、包含層は地表下約60cmが上面であり、その下層は二次堆積ローム層が確認された。



岩村田遺跡群調査全体図 (1:1,000)



遺跡調査全景（北東より）

試掘調査

26 平賀中屋敷遺跡群 5

所在地 佐久市大字平賀字中屋敷 5350-1
開発主体者 佐久市土木課
開発事業名 消防用防火水槽新設工事
調査期間 平成11年2月16日
面積 98m²
調査担当者 羽毛田卓也



平賀中屋敷遺跡群位置図 (1:10,000)

立地と経過

平賀中屋敷遺跡群は佐久市南部平賀集落内に展開する弥生～平安時代にかけての複合遺跡である。今回の調査地点は、遺跡群西側中央に位置する。今回佐久市土木課による消防用防火水槽新設工事が計画されたため試掘調査を行った。

調査の結果

対象地の東西方向中央にトレンチを掘削した結果、遺構は確認されなかった。遺物は平安時代の土師器甕・坏小片2点・江戸時代の陶磁器片2点・近代の陶磁器片1点が出土した。遺構確認までの土層は4層に分割された。第1・2層はアスファルト・碎石層で35cm、第3・4層はコンクリート・整地土で38cmを測る。確認面は炭化材微小片を微量含む暗褐色シルト層である。



平賀中屋敷遺跡群試掘トレンチ設定図 (1:1,000)



トレンチ掘削状況

試掘調査

27 中原遺跡群 21

所在地 佐久市大字今井字新田前 190
開発主体者 株式会社 木下組
開発事業名 宅地造成
調査期間 平成 11 年 2 月 16 日
面積 696m²
調査担当者 三石 宗一



中原遺跡群 位置図 (1 : 10,000)

立地と経過

中原遺跡群は佐久市中込に所在し、千曲川の支流滑津川右岸の切り立った段丘上に立地し、滑津川河床からの比高差は約30mを測る。遺跡群内南西端には佐久地方最大の横穴式石室を有する三河田大塚古墳が南側に開口して存在し、また、昭和58・59年に行われた佐久市遺跡詳細分布調査では、縄文時代から中世にかけての遺物が採集されている。

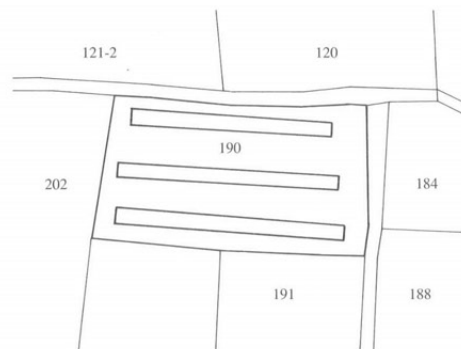
今回、株式会社木下組により宅地造成事業が行われることとなり、遺構の有無を確認するため試掘調査を実施した。

調査の結果

調査区内に東西3本のトレンチを掘り下げ遺構の確認を行ったが、遺構・遺物ともに確認されなかった。



(東方から)



中原遺跡群 21 調査全体図 (1 : 1,000)

試掘調査

28 野沢館跡 3

所在地 佐久市大字原字屋敷 467

開発主体者 宗教法人薬師寺

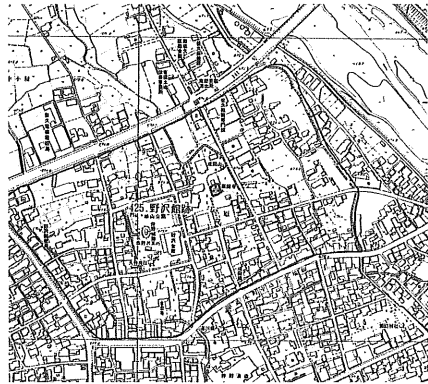
代表役員 窪田隆範

開発事業名 本堂改築工事

調査期間 平成11年 2月17日～3月2日

面積 1399.15m²

調査担当者 羽毛田卓也



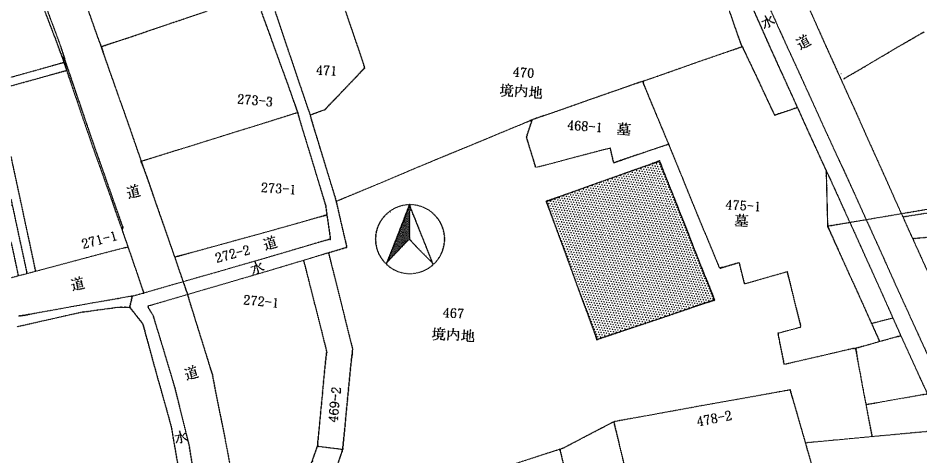
野沢館跡 3 位置図 (1:10,000)

立地と経過

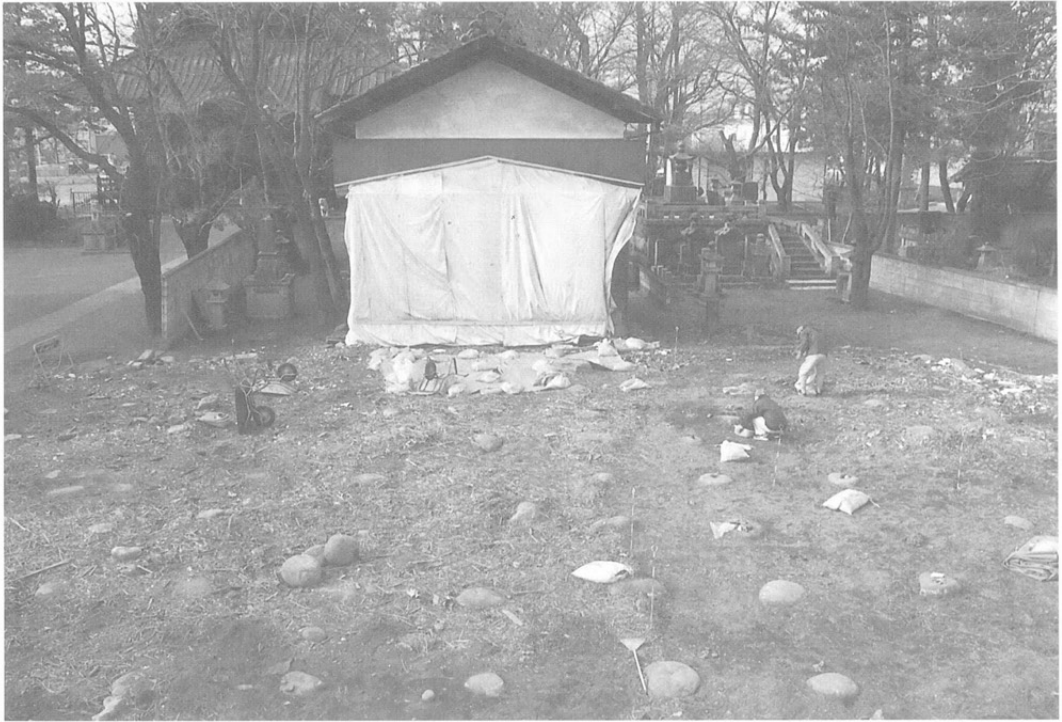
野沢館跡は佐久市南部野沢・原地籍に所在する中近世の居館址である。今回の調査地点は、館跡の東側北方に位置する。今回宗教法人薬師寺による本堂改築工事が計画されたため試掘調査を行った。

調査の結果

現存する本堂の礎石と基段部の測量と表土清掃・一部トレンチの掘り下げを行った結果、現存する本堂以前に焼失したと思われる建物の礎石の一部が検出された。遺物は近世の陶磁器・古銭を中心に中世の土師質土器・磁器などが出土した。



野沢館跡 3 位置図 (1:1,000)



野沢館跡3 表土除去・清掃作業（南より）



野沢館跡3 全景（南より）

試掘調査

29 長土呂遺跡群 下聖端遺跡

所在地 佐久市大字長土呂字下聖端 179-1・9

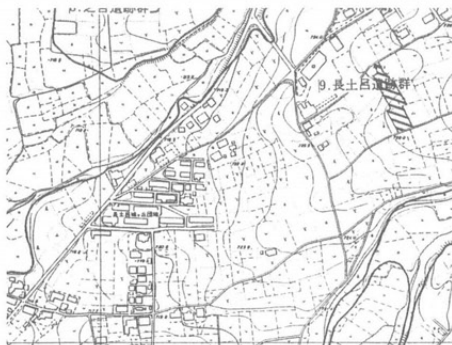
開発主体者 与志本林業株式会社

開発事業名 宅地造成

調査期間 平成11年3月24・25日

面積 2,846㎡

調査担当者 三石 宗一



下聖端遺跡位置図

経過と立地

下聖端遺跡は佐久市の北方標高 730.50 m を測る地点にある。本遺跡は東方の田切上に連続して広がる聖原遺跡と連続する集落である。聖原遺跡では古墳～平安時代を中心とした集落で 1000 棟以上の竪穴住居址がすでに調査されている。調査地点はこの南西にのびる台地が浸食によって田切り地形を呈している北斜面にあたる。そのため、南側は浅間第 1 軽石流を検出面とするが、北にかけて軽石流が 2 次堆積した砂層、その下は黒色土に覆われていた。

今回宅地造成が行われることとなり、3 本のトレンチを設定し遺構確認をした。

調査の結果

遺構 竪穴住居址 5 棟

掘立柱建物址 2 棟

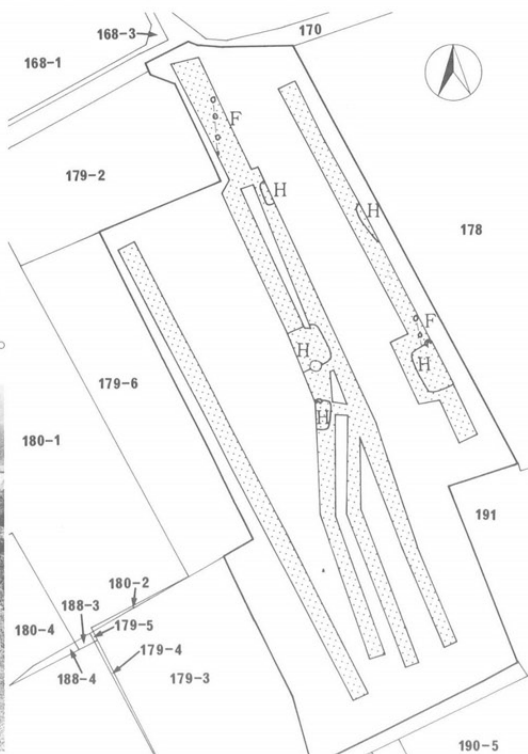
遺物 土師器 甕・杯

須恵器 甕・杯

これらより平安時代の遺構があることが確認され、協議の結果発掘調査を行うことになった。



下聖端遺跡 遺構検出状況 (南より)



下聖端遺跡全体図 (1:1,000)

試掘調査

30 薊沢遺跡 3

所在地 佐久市大字野沢字薊沢 449-2
調査委託者 野沢北高等学校創立百周年記念事業
実行委員会
開発事業名 同窓会館建設事業
調査期間 1999年3月26日
面積 342m²
調査担当者 林 幸彦



薊沢遺跡位置図

立地と経過

薊沢遺跡は千曲川の左岸、片貝側と千曲川に挟まれた千曲川氾濫原上の微高地にある。標高は673.1 m付近を測る。本遺跡は野沢北高等学校特別教室棟・音楽教室棟の建設工事に伴い、1987年に薊沢遺跡Ⅰの調査が行われた。奈良～平安時代の堅穴住居址7棟と土抗7基、ピット群が発見されている。さらに、1988年には同校の仮設トイレ・倉庫・自転車置き場建設に先立ち、薊沢遺跡Ⅱの発掘調査が実施されている。

今回、野沢北高等学校創立百周年記念事業実行委員会が同窓会館建設を計画したので、事前に試掘調査を実施した。

調査の概要

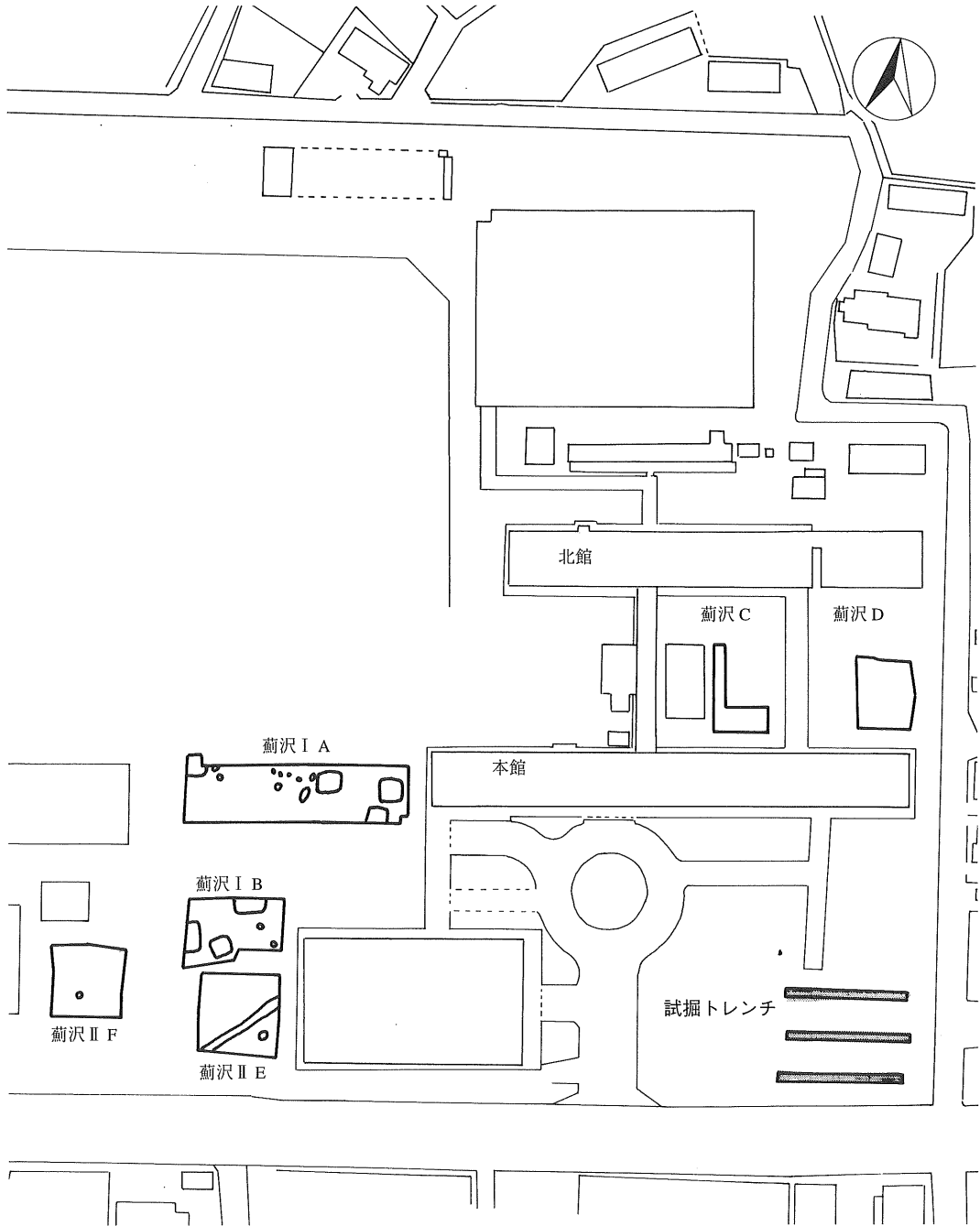


薊沢遺跡トレンチ近景

同窓会館の建設予定地に、幅1.5 mの試掘トレンチを東西に3本設定し、重機により表土を削平した。精査の結果、第1層の表土は一部に水田耕作の跡が窺えたが、図書館建設や、その取り壊し時に攪乱されていた。表土下20cmにおいて、第2層（薊沢遺跡Ⅰで確認された基本層序第Ⅱ層）の灰褐色土が現れた。その下部10cmで第3層（同上第Ⅴ層）の灰褐色土層（砂

礫層（円礫を多量に含む）にいたる。この第3層上面が薊沢遺跡の遺構確認面である。

今回の調査では、遺構遺物とも検出されなかった。



薊沢遺跡調査全体図

試掘調査

31 根々井館跡 4

所在地 佐久市大字根々井亀田 621-1・2

開発主体者 天神山正法寺

代表役員 瀬原 美明

開発事業名 墓地用地造成

調査期間 平成 11 年 3 月 29・30 日

面積 290m²

調査担当者 森泉かよ子



根々井館跡 4 位置図 (1 : 10,000)

立地と経過

根々井館跡は、西流し蛇行する湯川の右岸にあって標高 663.6 m を測る。湯川河岸段丘上の自然堤防で微高地となっている。

根々井館跡は昭和40年に長野県史跡指定され、中世根々井氏の居館跡に推定されている。現在天神山正法寺の境内となっている。周辺では弥生～平安時代の遺構・遺物が多くみられ、根々井居屋敷として周知されている。



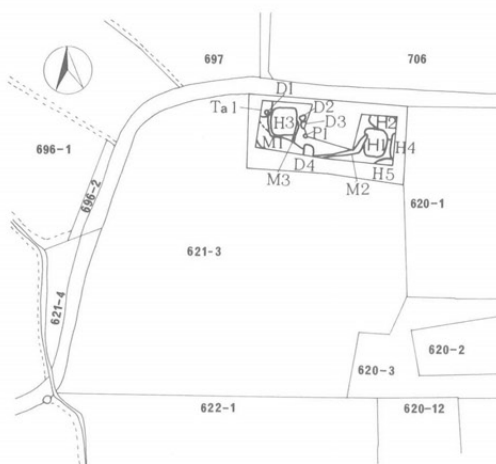
根々井館跡 4 (北東から)

今回正法寺北側の墓地に隣接する畑地を墓地に造成することとなり、試掘調査を行った。

調査の結果

検出遺構	竪穴住居址	4 棟
	竪穴状遺構	1 棟
	土坑	5 基
	溝状遺構	3 本
	単独ピット	1 個

上記の遺構は重複が激しく、正確なプラン数は把握仕切れなかった。



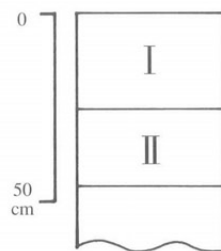
根々井館跡 4 全体図 (1 : 1,000)

H 1からは、平安時代の口縁部形態「コ」の字の武蔵甕や内面黒色処理の杯、軟質須恵器杯が出土し、H 2も同様である。H 3は土師器ロクロ甕片と椀片などがある。いずれも平安時代の堅穴住居址である。T a1からは内耳鍋の破片が出ており、中世の堅穴状遺構と思われる。M 1は遺構が重複しているらしくプランがつかめなかったが、平安時代の黒色処理された杯や灰釉陶器皿また中世の土鍋片を出土している。

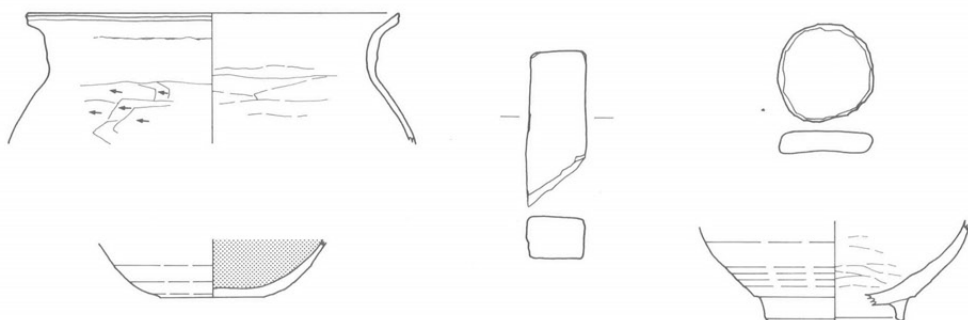
平安時代から中世にかけての遺構が濃密な状態であった。また検出面は砂質であるため、地盤が弱い地点である。

調査の結果、盛り土をして埋土保存し墓地を造成する事となった。

- I層 黒褐色土層 (10YR2/3) 耕作土。
- II層 黒褐色土層 (10YR2/2) 砂質。
- III層 暗褐色土層 (10YR3/3) 砂質。遺構確認面。



根々井館跡土層柱状図



根々井館跡 出土遺物 (1:4)



根々井館跡 4遺構検出状況 (東より)

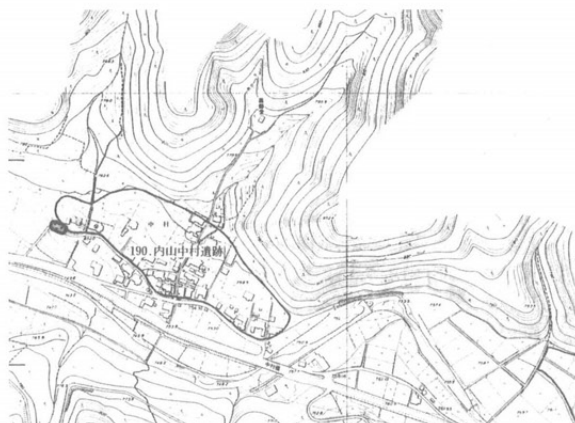


根々井館跡 4遺構検出状況 (南東より)

立会い調査

32 内山中村遺跡 1

所在地 佐久市大字内山字中村
開発主体者 佐久市土木課
開発事業名 市道改良
調査期間 1999年2月15日
面積 37.5㎡
調査担当者 林 幸彦



内山中村遺跡位置図

立地と経過

内山中村遺跡は滑津川の右岸、標高750m～770mを測る台地上にある。平安時代の遺物が表面採集されている。

佐久市土木課による市道改良にあたり、立会い調査を実施した。



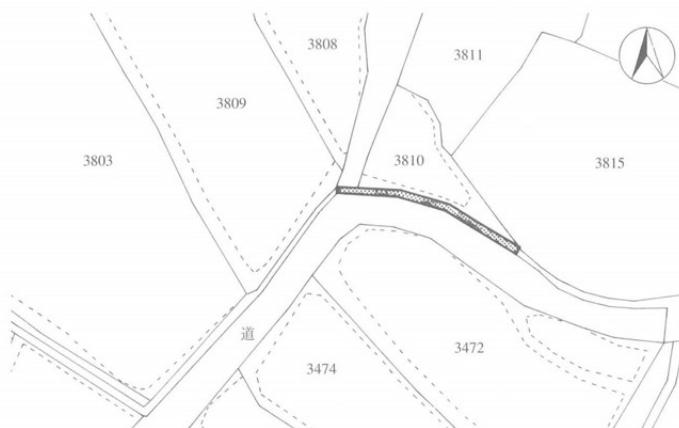
内山中村遺跡掘削状況（西方から）

調査の概要

今回の調査地は、水田の土手及び現用水の流路である。

北側は水田土手で約100cmの盛り土がみられた。南側は用水の流路で、汚泥を含む砂層が堆積していた。

遺構遺物とも確認されなかった。



内山中村遺跡調査全体図（1：1,000）

立会い調査

33 藤ヶ城跡 1

所在地 佐久市大字岩村田字南上の城 2708-7
開発主体者 佐久市土木課
開発事業名 消防用防火水槽新設工事
調査期間 平成11年3月3日
面積 25m²
調査担当者 羽毛田卓也



藤ヶ城跡位置図 (1:10,000)

立地と経過

藤ヶ城跡は佐久市岩村田集落の南東に展開する近世の城跡である。今回の調査地点は、城跡東部に位置する。今回佐久市土木課による消防用防火水槽新設工事が計画されたため試掘調査を行った。

調査の結果

対象地の東西方向中央にトレンチを掘削した結果、遺構は確認されなかった。遺物は近世の磁器1点が出土した。遺構確認までの土層は1層のみで、岩村田小学校校舎建築時に攪乱された土砂が56～98cmの深さで確認された。攪乱層の下層は黄褐色砂質ロームである。



藤ヶ城跡試掘トレンチ設定図 (1:1000)



トレンチ掘削状況

立会い調査

34 野沢館跡 4

所在地 佐久市大字原字屋敷 452-9

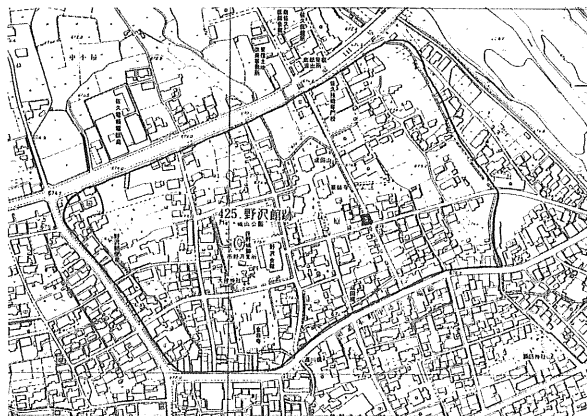
開発主体者 佐久市土木課

開発事業名 市道改良

調査期間 1999年3月10日

面積 25m²

調査担当者 林 幸彦



野沢館跡位置図

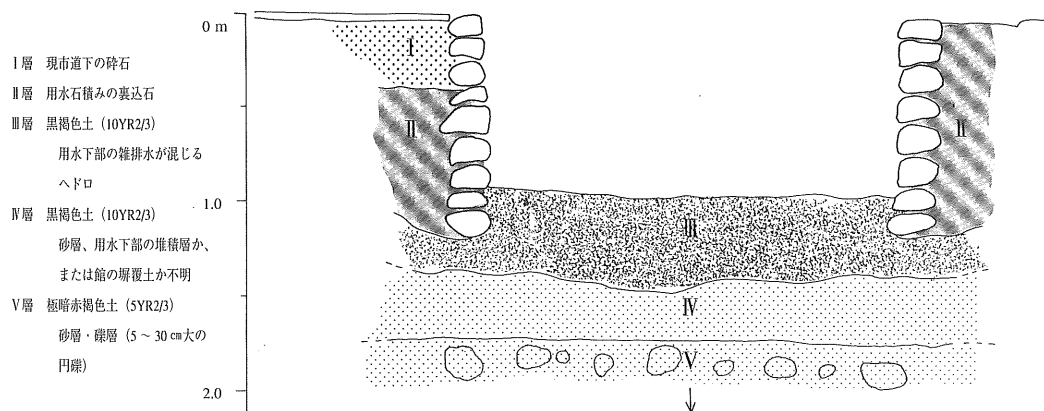
立地と経過

野沢館跡は、鎌倉時代以降伴野氏によって築かれたものと考えられており、「一遍上人絵伝」や残された幾葉かの古絵図から、現存する土塁と堀の周辺には多くの中世遺構が埋蔵されていると考えられる。今回、佐久市土木課が市道改良を行うことになったので立ち会い調査を実施した。

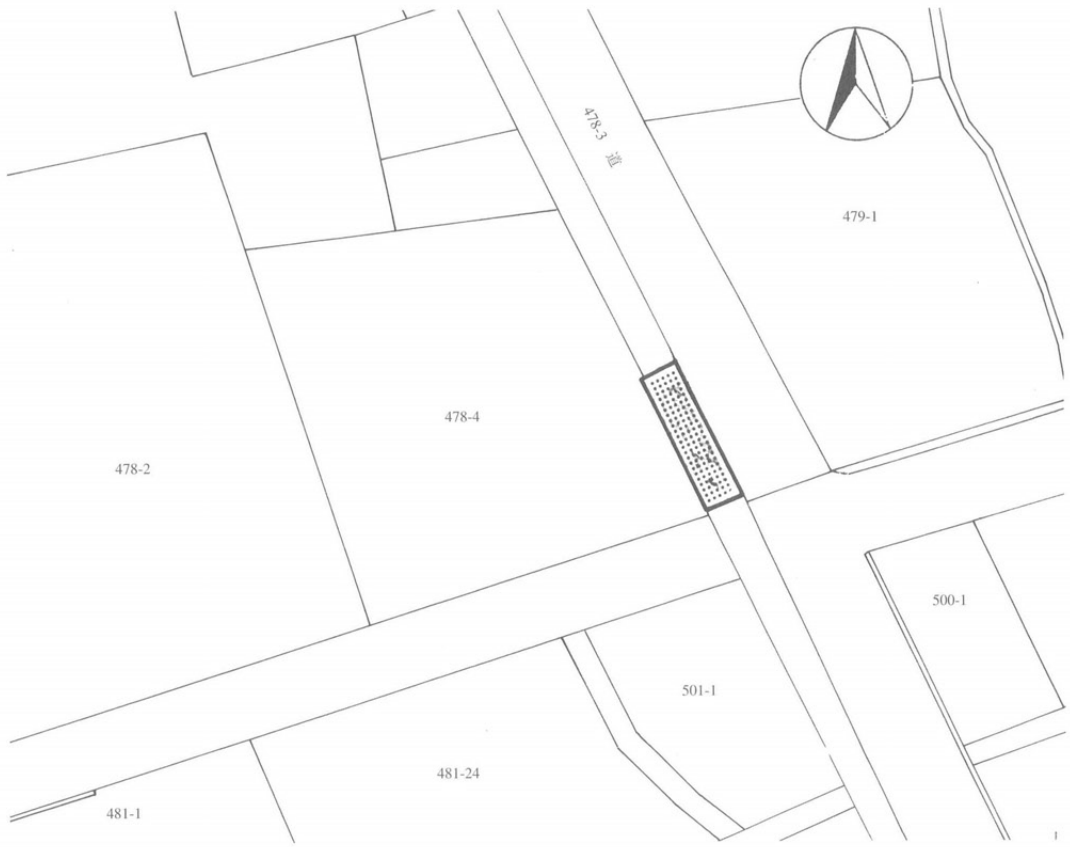
調査の概要

今回の調査地は、用水溝幅内で用水の石積み及び現用水の流路である。東側は市道で簡易舗装面下には、約40cmの碎石がみられた。その下部には約100cmの用水旧石積みがある。さらに、その下部には黒褐色の砂層、5～30cm大の円礫を含む極暗赤褐色の砂層がみられた。

対象地は古絵図によると野沢館跡の堀が存在する可能性が高い位置であるが、掘削が用水幅であったため、土層の観察からは明確にできなかった。



調査地点土層模式図



野沢館跡調査全体図

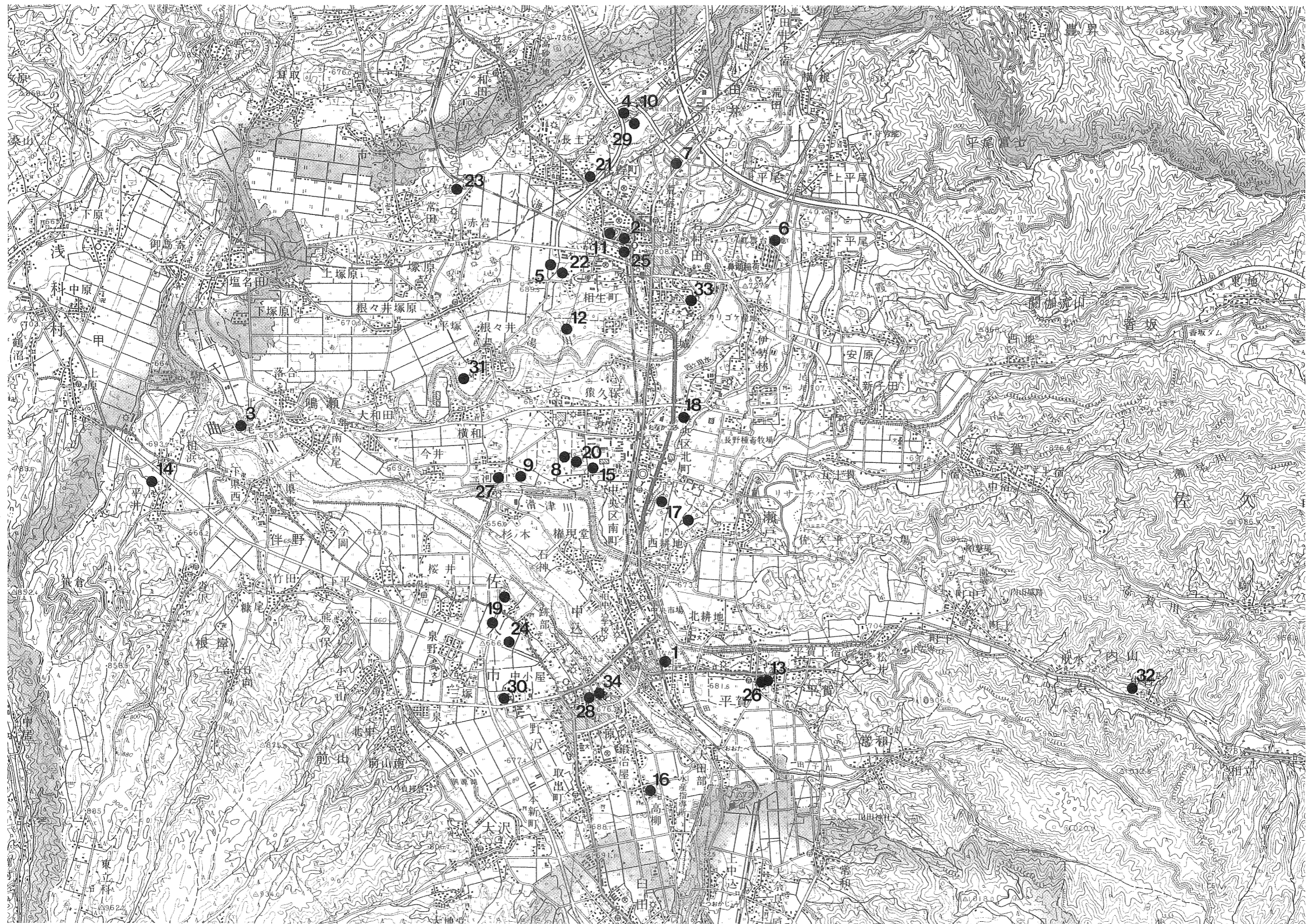


野沢館跡調査地点近景

1998 年度（平成 10 年度）市内遺跡発掘調査一覧表

1998年度（平成10年度）市内遺跡発掘調査一覧表

No.	遺跡名	開発主体者	所在地	開発事業名	開発面積(m ²)	保護措置	調査期間	担当者
1	新町遺跡6	(株)木下組	中込	宅地造成	2,933.00	試掘	4/2.3	富沢
2	岩村田遺跡群21	市区画整理課	岩村田	岩村田西本町沿道土地区画整理事業	90.00	試掘	4/7	上原
3	下北古屋遺跡(隣接)	市排水対策課	鳴瀬	農業集落排水事業	1,470.00	試掘	4/10~14	上原
4	芝宮遺跡群10	(有)エンドレスオート 佐久	長土呂	事務所建設	1,458.00	試掘	4/23.24.30. 5/20	三石
5	松の木遺跡Ⅲ	(株)マルカワ	岩村田	店舗建設	2,902.00	試掘	6/11.12	林
6	西大久保遺跡群8	(有)田園不動産	下平尾	宅地造成	2,022.00	試掘	6/24	小林
7	中久保田遺跡5	江元千浩	岩村田	共同住宅建設	399.00	試掘	7/6	三石
8	中原遺跡群17	市川純江	中込	店舗建設	1,045.67	試掘	7/17	三石
9	中原遺跡群18	ナコー開発(株)	三河田	宅地造成	2,085.00	試掘	7/17	三石
10	芝宮遺跡群11	(株)竹花組	長土呂	貸店舗建設	1,525.00	試掘	7/27.28	三石
11	枇杷坂遺跡群15	市区画整理課	岩村田	岩村田西本町沿道土地区画整備事業	481.00	試掘	9/17	三石
12	西一本柳遺跡群 西一本柳遺跡Ⅶ	笹沢幸司	岩村田	店舗兼住宅建設	977.00	試掘	9/22~10/23	森泉
13	平賀中屋敷遺跡4	市児童課	平賀	佐久市城山児童館	657.00	試掘	9/29	羽毛田
14	立石遺跡6	株式会社中木屋	根岸	レストラン・展望タワー建設	5,926.95	試掘	9/29	須藤
15	中原遺跡群19	有限会社信州銘木	中込	倉庫建設	661.00	試掘	10/1	三石
16	向畑遺跡2	(株)新津組佐久支店	鍛冶屋	宅地造成	1,263.66	試掘	10/8	上原
17	深堀遺跡群他	佐久地方事務所	瀬戸	県営農村活性化住環境整備事業	32,000.00	試掘	9/28~10/23	富沢
18	番屋前遺跡群12	長野県経済事業 農業協同組合連合会	猿久保	店舗、ガラス温室、 倉庫建設	8,677.87	試掘	10/29~11/7	上原
19	跡部儘田遺跡・ 跡部町田遺跡	市都市計画課	跡部	都市計画道路小諸佐久 白田線道路改築工事	12,000.00	試掘	10/5~11/7	林
20	中原遺跡群20	長野スバル自動車 株式会社	中込	店舗建設	1,993.74	試掘	11/9	三石
21	下蟹沢遺跡3	株式会社ゼンショー	長土呂	店舗建設	1,074.54	試掘	11/10	三石
22	松の木遺跡(隣接)	中澤達人	岩村田	店舗建設	1,772.00	試掘	11/10	三石
23	西近津遺跡群2	丸山啓一郎	長土呂	共同住宅建設	1,710.00	試掘	11/25	上原
24	金山遺跡(隣接)	中部電力株式会社	跡部	営業所建設	5,402.48	試掘	12/14~12/17	上原
25	岩村田遺跡群22	市区画整理課	岩村田	岩村田西本町沿道土地区画整理事業	400.00	試掘	12/17	富沢
26	平賀中屋敷遺跡5	市土木課	平賀	消防用防火水槽新設工事	98.00	試掘	2/16	羽毛田
27	中原遺跡群21	(株)木下組	今井	宅地造成	696.00	試掘	2/16	三石
28	野沢館跡3	宗教法人薬師寺 代表役員 窪田隆範	原	本堂改築工事	1,339.15	試掘	2/17~3/2	羽毛田
29	長土呂遺跡群 下聖端遺跡	与志元林業株式会社	長土呂	宅地造成	2,846.00	試掘	3/24.25	三石
30	薮沢遺跡3	野沢北高等学校創立百 周年記念事業実行委員	野沢	同窓会館建設事業	342.00	試掘	3/26	林
31	根々井館跡4	天神山正法寺 代表役員 瀬原美明	根々井	墓地用地造成	290.00	試掘	3/29.30	森泉
32	内山中村遺跡1	市土木課	内山	市道改良	37.50	立会	2/15	林
33	藤ヶ城跡1	市土木課	岩村田	消防用防火水槽新設工事	25.00	立会	3/3	羽毛田
34	野沢館跡4	市土木課	原	市道改良	25.00	立会	3/10	林



付 図 1998 年度市内遺跡発掘調査位置図 (1:50,000)

佐久市埋蔵文化財調査報告書

- 第1集 『金井城跡』
第2集 『市内遺跡発掘調査報告書1990』
第3集 『石附窯址Ⅲ』
第4集 『大ふけ遺跡』
第5集 『立科F遺跡』
第6集 『上曽根遺跡』
第7集 『三貫畑遺跡』
第8集 『瀧の下遺跡』
第9集 『国道141号線関係遺跡』
第10集 『聖原遺跡Ⅱ』
第11集 『赤座垣外遺跡』
第12集 『若宮遺跡Ⅱ』
第13集 『上高山遺跡Ⅱ』
第14集 『栗毛坂遺跡』
第15集 『野馬久保遺跡』
第16集 『石並城跡』
第17集 『市内遺跡発掘調査報告書1991』
(1月～3月)
- 第18集 『西曽根遺跡』
第19集 『上芝宮遺跡』
第20集 『下聖端遺跡Ⅲ』
第21集 『金井城跡Ⅲ』
第22集 『市内遺跡発掘調査報告1991』
第23集 『南上中原・南下中原遺跡』
第24集 『上聖端遺跡』
第25集 『上久保田向遺跡Ⅳ』
第26集 『藤塚古墳群・藤塚Ⅱ』
第27集 『上久保田向遺跡Ⅲ』
第28集 『曾根新城Ⅴ』
第29集 『筒村遺跡B山法師遺跡B』
第30集 『市内遺跡発掘調査報告1992』
第31集 『山法師遺跡A 筒村遺跡A』
第32集 『東ノ割』
第33集 『聖原遺跡Ⅶ 下曽根遺跡Ⅰ
前籾部遺跡2』
第34集 『西一本柳遺跡Ⅰ』
第35集 『市内遺跡発掘調査報告1993』
第36集 『蛇塚B遺跡Ⅲ』
第37集 『西一本柳遺跡Ⅱ 中西の久保遺跡Ⅰ』
第38集 『南下中原遺跡Ⅱ』
第39集 『中屋敷遺跡』
第40集 『寺畑遺跡』
- 第41集 『曾根新城遺跡Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ・Ⅳ・Ⅴ・Ⅵ
上久保田向遺跡Ⅰ・Ⅱ・Ⅴ・Ⅵ・Ⅶ
西曽根遺跡Ⅱ・Ⅲ』
第42集 『寄山』
第43集 『権現平遺跡・池端遺跡』
第44集 『寺添遺跡』
第45集 『市内遺跡発掘調査報告1994』
第46集 『濁り遺跡』
第47集 『上芝宮遺跡Ⅴ』
第48集 『池端城跡』
第49集 『根々井芝宮遺跡』
第50集 『藤塚遺跡Ⅲ』
第51集 『寺中遺跡中 屋敷遺跡Ⅱ』
第52集 『坪の内遺跡』
第53集 『円正坊遺跡Ⅱ』
第54集 『市内遺跡発掘調査報告1995』
第55集 『番屋前遺跡Ⅰ・Ⅱ』
第56集 『聖原遺跡Ⅹ』
第57集 『高師町遺跡Ⅱ』
第58集 『下虫穴遺跡Ⅰ』
第59集 『市内遺跡発掘調査報告書1996』
第60集 『曾根城遺跡Ⅱ』
第61集 『割地遺跡』
第62集 『野馬久保遺跡Ⅱ』
第63集 『西大久保遺跡Ⅲ』
第64集 『梨の木遺跡Ⅳ』
第65集 『中宿遺跡』
第66集 『中西ノ久保遺跡Ⅱ 仲田遺跡 寺畑遺跡Ⅱ』
第67集 『供養塚遺跡』
第68集 『前籾部遺跡』
第69集 『高山遺跡Ⅰ・Ⅱ』
第70集 『観音堂遺跡』
第71集 『市内遺跡発掘調査報告書1997』
第72集 『市道遺跡Ⅱ』
第73集 『西一本柳Ⅲ・Ⅳ』
第74集 『五里田遺跡』
第75集 『八風山・五斗代』
第76集 『南近津遺跡』
第77集 『番屋前遺跡Ⅲ』
第78集 『蛇塚遺跡 蛇塚古墳』
第79集 『四ッ塚遺跡Ⅰ』
第80集 『四ッ塚遺跡Ⅱ』
第81集 『葉師寺遺跡』

佐久市埋蔵文化財調査報告書第82集

市内遺跡発掘調査報告書 1998

2000年3月

編集・発行 佐久市教育委員会
〒385-8501 長野県佐久市大字中込3056

文化財課
〒385-0006 長野県佐久市大字志賀5953
TEL 0267-68-7321

印刷所 株式会社コックス
〒385-8501 長野県佐久市大字取出町120-1
TEL 0267-62-0403

